

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

宮大医医53号  
令和 6年 10月 4日  
開設者名 国立大学法人 宮崎大学長  
鮫島 浩

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
氏名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

宮崎大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地
電話(0985) 85 - 1510

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
<input type="radio"/> 1呼吸器内科	<input type="radio"/> 2消化器内科	<input type="radio"/> 3循環器内科	<input type="radio"/> 4腎臓内科
<input type="radio"/> 5神経内科	<input type="radio"/> 6血液内科	<input type="radio"/> 7内分泌内科	<input type="radio"/> 8代謝内科
<input type="radio"/> 9感染症内科	<input type="radio"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/> 11リウマチ科	
診療実績			
・脳神経内科で神経内科の診療を実施。 ・感染症内科でアレルギー科の診療を実施。			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名	

<input type="checkbox"/>	1呼吸器外科	<input type="checkbox"/>	2消化器外科	<input type="checkbox"/>	3乳腺外科	<input type="checkbox"/>	4心臓外科
<input type="checkbox"/>	5血管外科	<input type="checkbox"/>	6心臓血管外科	<input type="checkbox"/>	7内分泌外科	<input type="checkbox"/>	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="checkbox"/>	1精神科	<input type="checkbox"/>	2小児科	<input type="checkbox"/>	3整形外科	<input type="checkbox"/>	4脳神経外科
<input type="checkbox"/>	5皮膚科	<input type="checkbox"/>	6泌尿器科	<input type="checkbox"/>	7産婦人科	<input type="checkbox"/>	8産科
<input type="checkbox"/>	9婦人科	<input type="checkbox"/>	10眼科	<input type="checkbox"/>	11耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/>	12放射線科
<input type="checkbox"/>	13放射線診断科	<input type="checkbox"/>	14放射線治療科	<input type="checkbox"/>	15麻酔科	<input type="checkbox"/>	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科			有		
歯科と組み合わせた診療科名					
<input type="checkbox"/>	1小児歯科	<input type="checkbox"/>	2矯正歯科	<input type="checkbox"/>	3歯科口腔外科
歯科の診療体制					

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	形成外科	5	脳神経内科
6	糖尿病内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36				596	632

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	342	100	399.1
歯科医師	12	0	12
薬剤師	49	0	49
保健師	0	0	0
助産師	22	3	23.8
看護師	561	39	586.2

職種	員数
看護補助者	104
理学療法士	19
作業療法士	7
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	19

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	54
臨床検査衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	10

准看護師	0	0	0
歯科衛生士	8	0	8
管理栄養士	11	0	11

栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	32

その他の技術員	76
事務職員	121
その他の職員	9

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

### 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	48	眼科専門医	7
外科専門医	27	耳鼻咽喉科専門医	6
精神科専門医	5	放射線科専門医	12
小児科専門医	19	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	20
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	18
産婦人科専門医	14	救急科専門医	11
		合計	211

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

### 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 賀本 敏行 ) 任命年月日 令和 6 年 10 月 1 日

平成28年4月1日～現在(医療安全管理委員会委員)  
令和3年4月1日～令和3年9月30日(医療安全管理部長)

### 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	442.1 人	12.9 人	455 人
1日当たり平均外来患者数	1005.4 人	95.8 人	1101.2 人
1日当たり平均調剤数	2761.4		剤
必要医師数	105.5		人
必要歯科医師数	7		人
必要薬剤師数	35		人
必要(准)看護師数	266		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
			病床数	心電計
集中治療室	414.4 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	16 床	有
			人工呼吸装置	有
			その他の救急蘇生装置	有

無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	276.4	m <sup>2</sup>	病床数	16	床
	[移動式の場合]	台数		台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積		m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名	薬剤部 医薬品管理室・薬剤管理指導室				
化学検査室	334 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体前処理装置、生化学自動分析装置 (TBA2000FR,TBA-FX8)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動免疫測定装置 (i2000SR、cobas8000、e411)			
細菌検査室	87.2 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室			
病理検査室	184.2 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、ThinPrep、Fish装置、全自動密閉式パラフィン包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、遠心分離機、マイクローム、スライドプリンター、ドラフト装置、セーフティラック、組織自動カセット印字機、恒温器、伸展器、温浴器、純水製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX、排気機能付き切り出し台、撮影装置、フローユニット、凍結切片作製装置、安全キャビネット			
病理解剖室	52.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、ストレッチャー、ホルマリン排気バケツBOX、解剖用骨切断鋸装置、パソコン、モニター、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚			
研究室	2650 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン・書庫・机 ほか			
講義室	553 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2	室	収容定員	475 人
図書室	1908 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	6	室	蔵書数	127,881 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	97	%	逆紹介率	106	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		9600 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11677 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1125 人		
	D: 初診の患者の数		11053 人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
近本 亮	熊本大学病院医療の質・安全管理部	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体就労支援アストモス		医療を受ける者	無	2


- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
宮崎大学医学部附属病院ホームページ	



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	0
取り扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究(LC-SCRUM-Asia)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 IV期または術後再発の特定の遺伝子異常を持つ非小細胞肺癌に対し、分子標的薬が非常に有効であり、長期的な予後延長を見込める(最も一般的な遺伝子変異EGFRの分子標的薬で18.9か月の延命効果あり)。多くの肺癌症例でスクリーニングをかけて、治療法が判明していない稀な遺伝子異常を検出し、新薬治療の治験を進めていく必要がある。がんセンター東病院を基幹施設とし、肺癌の遺伝子検査を行う研究である。			
医療技術名	ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)陽性膠原病リウマチ性疾患専門外来	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 HTLV-1感染症のある膠原病リウマチ性疾患患者の診療			
医療技術名	重症熱性血小板減少症(SFTS)ウイルス感染症早期診断検査試薬の改良・開発研究	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 致死的ウイルス感染症であるSFTSの早期診断試薬の改良及び開発を進めている。			
医療技術名	ダニ媒介感染症の多施設共同レジストリ研究	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 宮崎県におけるダニ媒介感染症(重症熱性血小板減少症候群/日本紅斑熱/つつがむし病)の多施設共同レジストリ研究			
医療技術名	超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 ERCP困難・不能例に対する超音波内視鏡を用いた胆道ドレナージ術を施行する。経胃的に肝内胆管にアプローチするEUS-HGSと経十二指腸球部的に肝外胆管にアプローチするEUS-CDSを施行している。前者は十二指腸狭窄・閉塞例に対して、後者は肝内胆管拡張が認められない例など施行している。			
医療技術名	皮膚病変を有する成人T細胞白血病リンパ腫(ATLL)患者に対するヒドロキシクロロキンの有効性・安全性を検討する 単施設・非盲検・単群試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 くすぶり型及び予後不良因子のない慢性型の皮膚病変を有する ATLL患者に対して、ヒドロキシクロロキンの有効性・安全性を検討する 単施設・非盲検・単群試験(目標症例数5例)			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	Nested PCRによる細菌または真菌に起因する難治性の眼感染症に対する迅速診断	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 難治性眼感染症の起炎菌を、nested PCRの手法を用いて検索する。			



医療技術名	DVC1-0401網膜下投与による網膜色素変性に対する視細胞保護遺伝子治療の第I/IIa相医師主導治験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 網膜色素変性に対し遺伝子治療薬DVC1-0401を網膜下に注入し、神経栄養因子hPEDFを過剰発現させ、安全性および視機能障害の進行を評価する効果を検討する医師主導治験。			
医療技術名	難聴遺伝子解析	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 保険診療で検出されなかった遺伝子変異を解析			
医療技術名	妊娠22-23週の超早産に対する集学的管理	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 妊娠22～23週の周産期管理において、児は生存限界ぎりぎりの状態であり、妊娠24週以降の分娩とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	内視鏡を用いた顎骨嚢胞に対する低侵襲手術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 比較的大きな顎骨嚢胞の場合は、内視鏡を用いることで切開、骨削除範囲を最小限にすることで侵襲の少ない手術が可能となる。			
医療技術名	マイクロスコープを用いた低侵襲抜歯術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 マイクロスコープを用いて抜歯を行うことにより、切開、骨削除等の身体的侵襲が少ない治療を行うことができる。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	新生児脳低温療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 新生児脳低温療法(BHT)は、低酸素性虚血性脳症(HIE)による恒久的な脳障害を予防あるいは軽減する目的で始められた治療法である。生後6時間以内に治療を開始し、目標深部温度34℃まで冷却する。指標は、食道温や直腸温を用いる。BHT施行中は、各種モニタリングを行い、体温管理と同時に呼吸循環、血液凝固、電解質、感染、痙攣などに注意する。冷却時間は72時間で復温を開始する。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	284
当該医療技術の概要 遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。保険収載されたBRCA1/2遺伝学的検査に関する連携協定を県内の医療施設と結んでおり、現在の連携施設数は14施設である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	19
取扱い患者数の合計(人)	419

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	64	サルコイドーシス	80
2	筋萎縮性側索硬化症	16	65	特発性間質性肺炎	36
3	脊髄性筋萎縮症	5	66	肺動脈性肺高血圧症	18
4	進行性核上性麻痺	3	67	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	16
5	パーキンソン病	81	68	リンパ脈管筋腫症	2
6	大脳皮質基底核変性症	1	69	網膜色素変性症	19
7	ハンチントン病	4	70	バッド・キアリ症候群	3
8	シャルコー・マリー・トウス病	1	71	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	30
9	重症筋無力症	55	72	原発性硬化性胆管炎	3
10	多発性硬化症/視神経脊髄炎	47	73	自己免疫性肝炎	19
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	18	74	クローン病	258
12	封入体筋炎	2	75	潰瘍性大腸炎	334
13	多系統萎縮症	10	76	好酸球性消化管疾患	2
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	17	77	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	3
15	ライソゾーム病	9	78	筋ジストロフィー	6
16	副腎白質ジストロフィー	3	79	脊髄空洞症	1
17	ミトコンドリア病	5	80	脊髄髄膜瘤	1
18	もやもや病	20	81	脳表ヘモジデリン沈着症	1
19	HTLV-1関連脊髄症	7	82	先天性無痛無汗症	1
20	全身性アミロイドーシス	41	83	アレキサンダー病	1
21	神経線維腫症	18	84	レノックス・ガストー症候群	1
22	天疱瘡	13	85	ウエスト症候群	3
23	表皮水疱症	1	86	結節性硬化症	9
24	膿疱性乾癬(汎発型)	17	87	色素性乾皮症	1
25	中毒性表皮壊死症	1	88	家族性良性慢性天疱瘡	1
26	高安動脈炎	11	89	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16
27	巨細胞性動脈炎	3	90	特発性後天性全身性無汗症	7
28	結節性多発動脈炎	5	91	弾性線維性仮性黄色腫	3
29	顕微鏡的多発血管炎	32	92	マルファン症候群	2
30	多発血管炎性肉芽腫症	8	93	エーラス・ダンロス症候群	3
31	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	94	ウィルソン病	3
32	悪性関節リウマチ	1	95	低ホスファターゼ症	1
33	パージャール病	3	96	ウィリアムズ症候群	1
34	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	97	総動脈幹遺残症	1
35	全身性エリテマトーデス	172	98	修正大血管転位症	1
36	皮膚筋炎/多発性筋炎	102	99	完全大血管転位症	2
37	全身性强皮症	73	100	単心室症	3
38	混合性結合組織病	34	101	三尖弁閉鎖症	1
39	シェーグレン症候群	56	102	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1
40	成人スチル病	11	103	ファロー四徴症	4
41	再発性多発軟骨炎	3	104	両大血管右室起始症	2
42	ベーチェット病	53	105	急速進行性糸球体腎炎	1
43	特発性拡張型心筋症	26	106	抗糸球体基底膜腎炎	2
44	肥大型心筋症	18	107	一次性ネフローゼ症候群	30
45	再生不良性貧血	12	108	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
46	自己免疫性溶血性貧血	3	109	紫斑病性腎炎	2
47	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	110	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
48	特発性血小板減少性紫斑病	9	111	オスラー病	2
49	原発性免疫不全症候群	9	112	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
50	IgA腎症	19	113	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4
51	多発性嚢胞腎	12	114	フェニルケトン尿症	1
52	黄色靱帯骨化症	18	115	イソ吉草酸血症	1
53	後縦靱帯骨化症	77	116	システロール血症	2
54	広範脊柱管狭窄症	4	117	原発性高カイロミクロン血症	1
55	特発性大腿骨頭壊死症	70	118	家族性地中海熱	3
56	下垂体性ADH分泌異常症	22	119	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	2
57	下垂体性PRL分泌亢進症	28	120	強直性脊椎炎	13
58	クッシング病	5	121	骨形成不全症	2
59	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16	122	軟骨無形成症	1
60	下垂体前葉機能低下症	125	123	後天性赤芽球癆	1
61	先天性副腎皮質酵素欠損症	7	124	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
62	先天性副腎低形成症	1	125	胆道閉鎖症	1
63	アジソン病	2	126	遺伝性膝炎	1



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療	・精神科リエゾンチーム加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・摂食障害入院医療管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・栄養サポートチーム加算
・歯科外来診療感染対策加算3	・医療安全対策加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・感染対策向上加算1
・特定機能病院入院基本料	・感染対策向上加算1の注2:指導強化加算
・特定機能病院入院基本料の注10:入院栄養管理体制加算	・感染対策向上加算1の注5:抗菌薬適正使用支援加算
・特定機能病院入院基本料(精神)(13対1)	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料の注4:重度認知症加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割以上)	・入退院支援加算1
・急性期看護補助体制加算の注2:夜間100対1急性期看護補助体制加算	・入退院支援加算の注7:入院時支援加算
・急性期看護補助体制加算の注3:夜間看護体制加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算の注4:看護補助体制充実加算2	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算(12対1)1	・精神科急性期医師配置加算2
・看護補助加算2	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料1
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料の注2のイ:精神疾患診断治療初回加算
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料の注3:救急体制充実加算1
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・救命救急入院料の注6:小児加算
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料の注1:算定上限日数
・特定集中治療室管理料の注2:小児加算	・小児入院医療管理料2

・特定集中治療室管理料の注4:早期離床・リハビリテーション加算	・小児入院医療管理料の注2:ロ 保育士2名以上の場合
・総合周産期特定集中治療室管理料1	・小児入院医療管理料の注5:無菌治療管理加算(1・2)
・総合周産期特定集中治療室管理料2	・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)
・新生児治療回復室入院医療管理料	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5:遠隔モニタリング加算	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2:難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料イ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ロ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ハ	・骨髓微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ニ	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)(血液を検体とするもの)
・外来緩和ケア管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・先天性代謝異常症検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・小児運動器疾患指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・婦人科特定疾患治療管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・二次性骨折予防継続管理料1	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・二次性骨折予防継続管理料3	・検体検査管理加算(IV)
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん治療連携計画策定料	・胎児心エコー法
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ヘッドアップティルト試験
・薬剤管理指導料	・人工膵臓検査、人工膵臓療法
・医療機器安全管理料1	・長期継続頭蓋内脳波検査
・医療機器安全管理料2	・単線維筋電図
・医療機器安全管理料(歯科)	・神経学的検査
・精神科退院時共同指導料1及び2	・補聴器適合検査
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・黄斑局所網膜電図
・全視野精密網膜電図	・がん患者リハビリテーション料

・ロービジョン検査判断料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・コンタクトレンズ検査料1	・救急患者精神科継続支援料
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料
・CT透視下気管支鏡検査加算	・硬膜外自家血注入
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・人工腎臓
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・精密触覚機能検査	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・画像診断管理加算1	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・ポジトロン断層撮影	・ストーマ合併症加算
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・手術用顕微鏡加算
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・口腔粘膜処置
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・う蝕歯無痛の窩洞形成加算
・CT撮影及びMRI撮影	・CAD/CAM冠
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・歯科技工加算1及び2
・外来化学療法加算1・外来腫瘍化学療法診療料1	・センチネルリンパ節加算
・外来腫瘍化学療法診療料1の注9:がん薬物療法体制充実加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・心大血管疾患リハビリテーション料の注3:初期加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・脳血管疾患等リハビリテーション料の注3:初期加算	・椎間板内酵素注入療法
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・緊急穿頭血腫除去術
・運動器リハビリテーション料の注3:初期加算	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料の注3:初期加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・羊膜移植術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)

・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜再建術	・胸腔鏡下弁置換術
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的 大動脈弁置換術)
・人工中耳植込術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨 導補聴器交換術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨 形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ 甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小 体)腺腫過形成手術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレス ペースメーカー)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心 室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生 検(併用)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両 心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生 検(単独)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込 型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下 植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他の もの)及び経静脈電極除去術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用 いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極 の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 (心筋電極の場合)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用 いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電 極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換 術(経静脈電極の場合)
・気管支バルブ留置術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を 超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を 用いる場合)	・経皮的下肢動脈形成術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合 併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及 び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・精巣温存手術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するも の)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を 用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡 手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を 用いるもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支 援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性 腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を 用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡 手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術



・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・体外衝撃波胆石破碎術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・体外衝撃波膵石破碎術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・輸血管理料 I
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・同種クリオプレシピテート作製術
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・生体腎移植術	・歯周組織再生誘導手術
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・歯根端切除手術の注3
・尿道狭窄グラフト再建術	・レーザー機器加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・麻酔管理料(Ⅱ)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・放射線治療専任加算	・病理診断管理加算2
・外来放射線治療加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・高エネルギー放射線治療	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・1回線量増加加算	・歯科矯正診断料
・強度変調放射線治療(IMRT)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・看護職員処遇改善評価料(53)
・体外照射呼吸性移動対策加算	・外来・在宅ベースアップ評価料(1)
・定位放射線治療	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(1)
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・入院ベースアップ評価料(70)
・画像誘導密封小線源治療加算	・入院ベースアップ評価料(70)(歯科)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	検査部: 120 回 病理部: 200 回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	21
	剖検率(%)	8.54

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元または委託元
末期腎不全合併冠動脈疾患における新規血栓形成能解析法を用いた個別最適化医療の構築	海北 幸一	循環器内科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ATL新規治療標的の同定と、個別化医療への展開	下田 和哉	血液内科	24,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	亀田 拓郎	血液内科	260,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
新規病態:HTLV-1陽性HRS細胞を伴う成人T細胞白血病/リンパ腫の統合的解析	下田 和哉	血液内科	130,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
腫瘍性fibrocyteの本態解明と、骨髄線維症診断・治療への展開	下田 和哉	血液内科	7,800,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
炎症と血栓形成の新仮説に基づく骨髄増殖性腫瘍の病態制御	幣 光太郎	血液内科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ATL発症マウスモデルの作成と腫瘍生存シグナルの多様性を考慮した精密医療の確立	亀田 拓郎	血液内科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
遺伝子発現制御法を用いた多発性硬化症の成因解明と治療探索研究	中里 祐毅	脳神経内科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
糸状菌真菌症に対する疫学調査及び革新的診断法と治療法の研究開発	宮崎 泰可	呼吸器内科	22,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
1細胞解析結果に基づく肺癌の発癌責任間葉サブクラスターとCAF起源細胞の決定	柳 重久	呼吸器内科	520,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
グレリンシグナルの活性化による高齢者肺炎サルコペニアへの新規治療法の開発	坪内 拓伸	呼吸器内科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
尿中蛋白質断片の網羅的解析による日和見感染症の新規診断法の開発	宮崎 泰可	呼吸器内科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
1型糖尿病におけるイプラグリフロジン補助療法による腎機能変化の検討	上野 浩晶	内分泌・代謝・糖尿病内科	418,000	委	国立大学法人長崎大学
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	上野 浩晶	内分泌・代謝・糖尿病内科	500,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の安全性と忍容性に関する解析	宮崎 泰可	膠原病・感染症内科	66,000	委	国立大学法人長崎大学
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	650,000	委	国立大学法人長崎大学
SFTSウイルス感染は宿主の好中球機能を低下させ、真菌症合併のリスクとなるか？	川口 剛	膠原病・感染症内科	2,080,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	200,000	補	科学研究費補助金(厚生労働省)
HAMRET Study切除不能肝細胞癌における薬物療法の前向き観察研究	蓮池 悟	消化器内科	22,000	委	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会
肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につながる方策の確立に資する研究	永田 賢治	消化器内科	400,000	補	科学研究費補助金(厚生労働省)
多言語音声知覚における脳内リズムと意味理解	平野 羊嗣	精神科	715,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
脳構造と脳機能から精神疾患を再分類する取り組み:5カ国国際共同研究	平野 羊嗣	精神科	4,160,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

神経同期活動を軸にした統合失調症の橋渡し研究:病態解明と新規治療法開発にむけて	平野 羊嗣	精神科	4,290,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
パーキンソン病モデルラットのアロディニアに関連した線条体アストロサイトの機能解析	石田 康	精神科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
統合失調症者の言語性幻聴緩和のためのニューロフィードバック支援法の開発	平野 羊嗣	精神科	195,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
社会的ひきこもり事例の支援者要因に着目した治療的要因モデル作成に関する研究	久保 浩明	精神科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
わが国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する大規模調査研究	盛武 浩	小児科	1,344,200	委	特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ
ヒトiPS細胞由来腎臓オルガノイドを用いたLMX1B変異に伴う腎症の病態解明	田中 悦子	小児科	650,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
PDXマウスモデルを用いた再発難治小児急性骨髄性白血病の病態解明と新規治療法開発	盛武 浩	小児科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
クリック反応技術と軸配位子糖鎖連結ポリフィリン錯体を融合した革新的PDTの開発	七島 篤志	肝胆膵外科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
GVHD誘導マウスでのサイトカイン阻害による胆道閉鎖症の炎症標的型治療法の開発	榎屋 隆太	消化管・内分泌・小児外科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	古川 貢之	心臓血管外科	13,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
FMR治療における病理、遺伝子発現機構からの検証に基づいた左房機能評価の意義の確立	古川 貢之	心臓血管外科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
コロナ禍による整形外科手術および一般人の運動器機能への影響調査	帖佐 悦男	整形外科	750,000	委	公益社団法人日本整形外科学会
ロコモティブシンドロームの評価法の開発	帖佐 悦男	整形外科	2,000,000	委	小林市立病院
High volume転移を認める前立腺癌患者に対する局所放射線治療を併用する標準治療の確立と治療効果予測マーカーの開発	賀本 敏行	泌尿器科	17,197,645	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
機械学習を用いた原発性アルドステロン症における個別化医療基盤の確立	西本 紘嗣郎	泌尿器科	65,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
副腎皮質細胞の形質遷移に着目した細胞層構築・維持と破綻に関する分子基盤の解明	西本 紘嗣郎	泌尿器科	115,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ヒト化マウスを用いた腎細胞癌PDXモデルの樹立とMET阻害薬効果予測因子の同定	向井 尚一郎	泌尿器科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
病変に着目した原発性アルドステロン症進展メカニズムの解明	西本 紘嗣郎	泌尿器科	451,590	補	科学研究費補助金(文部科学省)
転移性CRPCにおける、HGF/METパスウェイを標的とした新規治療法の開発	賀本 敏行	泌尿器科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
網膜色素変性の病因遺伝子変異とその臨床像に関するエビデンス構築	池田 康博	眼科	7,027,603	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜色素変性に対する革新的なcDNA挿入型ゲノム編集遺伝子治療の開発	池田 康博	眼科	2,600,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
網膜色素変性の進行を抑制するスタチン封入ナノ粒子薬の開発	池田 康博	眼科	1,450,800	委	国立大学法人九州大学

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

網膜色素変性を自然発症するカニクイザルの繁殖と治療法開発への応用	池田 康博	眼科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
短後毛様動脈虚血による正常眼圧緑内障モデルの作成とアドレノメジュリン効果の検討	中馬 秀樹	眼科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
音源定位をサポートするハプティックデバイスの開発/一側聾の包括的治療を目指して	中村 雄	耳鼻いんこう・頭頸部外科	2,210,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
静脈血栓塞栓の質的診断に繋がるDual-energyCTによる血栓の成分解析	古小路 英二	放射線科	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オプトジェネティクスを用いた神経障害性疼痛モデルマウスの作製と疼痛機序の解明	丸田 豊明	麻酔科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
移植患者の免疫抑制薬による疼痛の発症メカニズムを明らかにしその治療法を確立する	丸田 豊明	麻酔科	260,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
代謝経路再編成が概日リズム経路を介し、幹細胞性維持、細胞死回避に及ぼす影響の解明	横上 聖貴	脳神経外科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オルガノイド・シングルセル解析法によるグリオーマ血管擬態の分子機構解明	山下 真治	脳神経外科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
口腔扁平上皮癌におけるリンパ節転移の新規遺伝子診断アルゴリズムの確立	山下 善弘	歯科口腔外科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
成長期の口腔育成から子どもロコモと高齢期オーラルフレイルを予防する新戦略	永田 順子	歯科口腔外科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
南海トラフ地震における災害医療対応シミュレーション・システムの開発	落合 秀信	救急科	65,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
OSERO Study 切除不能進行再発大腸癌における後方治療の前向き観察研究	細川 歩	臨床腫瘍科	99,000	委	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会
大動脈瘤化を促進する壁内細胞の代謝変化とその血液指標の同定	中村 恵理子	病理診断科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オートファジー細胞死を標的とする新規肺腺癌治療薬の開発	南 謙太郎	薬剤部	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ニーマン・ピック病C型の臨床課題を克服する次世代型コレステロール輸送療法の構築	山田 侑世	薬剤部	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
癌病態進展因子である $\alpha$ 1-酸性糖タンパク質の異性体間における機能差異解析	松坂 幸太郎	薬剤部	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
免疫抑制薬の個別化薬物動態マネジメントを実現する新規バイオマーカーの開発	吉川 直樹	薬剤部	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
医療行為の結果を質向上する多施設共同カイゼン研究デザインに関する研究	綾部 貴典	医療安全管理部	30,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
超高齢社会の転院・転所情報の共有技術支援及び技術導入がもたらす社会的課題の検討	鈴木 斎王	患者支援センター	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究	鈴木 斎王	患者支援センター	200,000	補	科学研究費補助金(厚生労働省)
HGFクラスターエフェクトによる治療戦略-壊死性腸炎の救世主になり得るか?	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	65,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
周産期予後改善を目指したウレアプラズマ陽性母体および新生児治療に関する臨床的研究	児玉 由紀	総合周産期母子医療センター	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

新生児壊死性腸炎の死亡0を目指した核酸医薬RAGEアプタマーによる革新的治療法の開発	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	39,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
舌色を活用した栄養状態自己管理システムの構築	原口 直樹	栄養管理部	26,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
CRISPR/Cas9によるHBZ遺伝子標的の転写調節因子tax遺伝子への影響	橋倉 悠輝	検査部	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

計69件

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Toshihiro Tsuruda, Taro Funamoto, Chiyoko Suzuki et al.	循環器内科	Increasing baseline aortic valve peak flow velocity is associated with progression of aortic valve stenosis in osteoporosis patients—a possible link to low vitamin D status	Archives of Osteoporosis. 2023 Oct 24; 18(1):129	Original Article
2	Danfeng Jiang, Minami Matsuzaki, Takanori Ida et al.	循環器内科	Natriuretic peptides potentiate cardiac hypertrophic response to noradrenaline in rats	Peptides. 2023 Aug; 166:171035	Original Article
3	Nozomi Watanabe, Keiichi Ashikaga	循環器内科	Mitral regurgitation improvement after successful atrial fibrillation ablation by using a 3D mapping system	Ann Cardiothorac Surg. 2024 Jan 30; 13(1):99-101	Others
4	Soichi Komaki, Yunosuke Matsuura, Hiroki Tanaka et al.	循環器内科	Nitroglycerin use and adverse clinical outcomes in elderly patients with acute coronary syndrome	Open Heart. 2024 Jan 11; 11(1):e002494	Original Article

5	Hisanobu Shimazu, Yunosuke Matsuura, Kohei Moribayashi et al.	循環器内科	Very Late Stent Thrombosis Complicating Immune Thrombocytopenia: Insights From Optical Coherence Tomography and Thrombopathology	JACC: Case Reports. 2023 Sep 12; 24:102017	Original Article
6	Shoko Ochiai, Hiroko Inagaki, Shuichi Hisanaga et al.	腎臓内科	A Patient with Mitochondrial Disease on Dialysis with Long-term Follow-up of Cardiomyopathy: An Autopsy Case Report	Internal Medicine. 2023 Oct 1; 62(19):2859-2863	Original Article
7	Takuro Kameda, Atae Utsunomiya, Nobuaki Otsuka et al.	血液内科	Impaired humoral immunity following COVID-19 vaccination in HTLV-1 carriers	BMC Infectious Diseases. 2024 Jan 17; 24(1):96	Original Article
8	Kotaro Shide, Katsuto Takenaka, Akira Kitanaka et al.	血液内科	Real-world clinical characteristics of post-essential thrombocythemia and post-polycythemia vera myelofibrosis	Annals of Hematology. 2024 Jan; 103(1):97-103	Original Article
9	Takuro Kameda, Keisuke Kataoka, Ayako Kamiunten et al.	血液内科	Integrated genetic and clinical prognostic factors for aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma	Haematologica. 2023 Aug 1; 108(8):2178-2191	Original Article



10	Kotaro Shide, Katsuto Takenaka, Akira Kitanaka et al.	血液内科	Nationwide prospective survey of secondary myelofibrosis in Japan: superiority of DIPSS-plus to MYSEC-PM as a survival risk model	Blood Cancer Journal. 2023 Jul 19; 13(1):110	Original Article
11	Taiga Miyazaki, Kiyoyasu Fukushima, Kohji Hashiguchi et al.	呼吸器内科	A high $\alpha 1$ - antitrypsin/interleuki n-10 ratio predicts bacterial pneumonia in adults with community-acquired pneumonia: a prospective cohort study	Pneumonia (Nathan). . 2023 Oct 25; 15(1):16	Original Article
12	Yasuharu Oda, Hironobu Tsubouchi, Nobuyuki Ishii et al.	呼吸器内科	A rare case of concomitant Lambert -Eaton myasthenic syndrome and syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion in a patient with small cell lung carcinoma	Respiratory Medicine Case Reports. 2023 Oct 19; 46:101930	Original Article
13	Taiga Miyazaki, Naoki Hosogaya, Yuri Fukushige et al.	呼吸器内科	A Multicenter Randomized Controlled Trial To Evaluate the Efficacy and Safety of Nelfinavir in Patients with Mild COVID-19	Microbiology Spectrum. 2023 Jun 15; 11(3):e0431122	Original Article
14	Takanori Horiguchi, Makoto Sumiyoshi, Eri Nagatomo et al.	呼吸器内科	Luteibacter jiangsuensis blood stream infection: a first case report	BMC Infectious Diseases. 2023 Dec 7; 23(1):863	Original Article

15	Hiroki Nabekura, Md Nurul Islam, Hideyuki Sakoda et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Liver-Expressed Antimicrobial Peptide 2 Is a Hepatokine That Predicts Weight Loss and Complete Remission of Type 2 Diabetes Mellitus after Vertical Sleeve Gastrectomy in Japanese Individuals	Obes Facts. 2023 Aug; 16(4):392-400	Original Article
16	Taisuke Uchida, Hiroaki Ueno, Ayaka Konagata et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	A Response to Letter to the Editor: Can Imeglimin Improve the Systolic Time Intervals in Diabetes Mellitus?	Diabetes Therapy. 2023 Jun; 14(6):1075-1076	Letter
17	Taisuke Uchida, Hideki Yamaguchi, Yasuji Arimura et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Iliopsoas muscle to visceral fat ratio on CT predicts Cushing's syndrome in elderly females with adrenal tumors	Endocrine Journal. 2023 Aug 28; 70(8):825-832	Original Article
18	Masatoshi Kimura, Ayako Aizawa, Risa Kudou et al.	膠原病内科	Differences in muscle magnetic resonance imaging findings between anti-signal recognition particle antibody-positive myopathy and anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibody-positive myositis	Clin Exp Rheumatol. . 2024 Feb; 42(2):321-328	Original Article
19	Risa Kudo, Takeshi Kawaguchi, Masatoshi Kimura et al.	膠原病内科	Coronavirus disease 2019 in a patient with pulmonary fibrosis and emphysema: An autopsy report	Heliyon. 2023 Nov 10; 9(11):e22221	Case report

20	Hiroshi Kawakami, Naomi Uchiyama, Souichiro Ogawa	消化器内科	Duodenoscope insertion difficulty due to perigastric adhesions overcome using an overtube	J Hepatobiliary Pancreat Sci.. 2023 Dec; 30(12):e84-e85	Case report
21	Hiroshi Kawakami, Naomi Uchiyama, Hiroshi Hatada	消化器内科	Newly developed dedicated guide sheath system for selective pancreatobiliary biopsy	Digestive Endoscopy . 2023 Jul; 35(5):e100-e102	Case report
22	Yoshinori Ozono, Hiroshi Kawakami, Naomi Uchiyama et al.	消化器内科	Current status and issues in genomic analysis using EUS-FNA/FNB specimens in hepatobiliary-pancreatic cancers	Journal of Gastroenterology. 2023 Nov; 58(11):1081-1093	Review
23	Satoru Hasuike, Kenji Nagata, Haruka Sasaki et al.	消化器内科	Inflammatory Hepatocellular Adenoma Mimicking Focal Nodular Hyperplasia That Grew during Pregnancy and Changed Its Appearance on Magnetic Resonance Imaging after Delivery	Internal Medicine. 2023 Nov 1; 62(21):3143-3149	Original Article
24	Shunsuke Tamura, Yoji Hirano	精神科	Cortical representation of speech temporal information through high gamma-band activity and its temporal modulation	Cerebral Cortex. 2023 Jun 20; 33(13):8773-8782	Original Article

25	Hideki Funahashi, Darya Pavlenko, Kent Sakai et al.	精神科	Dynorphinergic projections from the central amygdala to the parabrachial nucleus regulate itch	Journal of Neuroscience. 2023 Jul 19; 43(29):5340-5349	Original Article
26	Ayaka Haruta-Tsukamoto, Anna Kanemaru-Kawazoe, Yoichiro Kogoh et al.	精神科	Role of kainate receptors in pruriceptive processing in the mouse spinal cord	European Journal of Pharmacology. 2023 Oct 15; 957:175998	Original Article
27	Yu Miyahara, Hideki Funahashi, Ayaka Haruta-Tsukamoto et al.	精神科	Differential Contribution of 5-HT4, 5-HT5, and 5-HT6 Receptors to Acute Pruriceptive Processing Induced by Chloroquine and Histamine in Mice	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2023 Nov 1; 46(11):1601-1608	Original Article
28	Shunsuke Tamura, Mitsunori Mizumachi	精神科	Contributions of temporal envelope and temporal fine structure to segregation of Lombard speech from background noise	Acoustical Science and Technology. 2024 Jan; 45(1):33-44	Others
29	Naoto Yamashita, Masako Harada, Hiroshi Moritake	小児科	Left atrial appendage aneurysm enlarged in the neonatal period	Cardiol Young. 2023 Aug; 33(8):1433-1435	Original Article

30	Yoshinori Aoki, Hongmei Dai, Fumika Furuta et al.	小児科	LOX-1 mediates inflammatory activation of microglial cells through the p38-MAPK/NF- $\kappa$ B pathways under hypoxic-ischemic conditions	Cell Commun Signal.. 2023 Jun 2; 21(1):126	Original Article
31	Shun Nagasawa, Ai Yamada, Midori Nakagawa et al.	小児科	Reduced-intensity therapy for relapsed Philadelphia chromosome-positive leukemia	Pediatric Blood and Cancer. 2024 Feb; 71(2):e30802	Letter
32	Yoshihiko Kodama, Satoru Meiri, Tomoko Asada et al.	小児科	Novel splice site variant of TMEM38B in osteogenesis imperfecta type XIV	Human Genome Variation. 2023 Sep 11; 10(1):25	Original Article
33	Ai Yamada, Mariko Kinoshita, Sachiyo Kamimura et al.	小児科	Novel Strategy Involving High-Dose Chemotherapy with Stem Cell Rescue Followed by Intrathecal Topotecan Maintenance Therapy without Whole-Brain Irradiation for Atypical Teratoid/Rhabdoid Tumors	Pediatric Hematology and Oncology. 2023 Jul 30; 40(7):629-642	Original Article
34	Kohei Otomi, Ai Yamada, Jun Kurogi et al.	小児科	Pneumocystis pneumonia during everolimus therapy for Kasabach-Merritt phenomenon	Pediatrics International. 2023 Aug 24; 65(1):e15593	Original Article

35	Masako Harada, Ai Yamada, Shun Nagasawa et al.	小児科	BMPR2 variant may be related to pulmonary hypertension after lung irradiation	Pediatrics International. 2023 Oct 7; 65(1):e15652	Original Article
36	Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, Naoya Imamura et al.	肝胆膵外科	Measuring intraoperative anesthetic parameters during hepatectomy with inferior vena cava clamping	Langenbecks Arch Surg. 2023 Dec 5; 408(1):455	Others
37	Atsushi Nanashima, Takeshi Nagayasu, Naoya Yamasaki et al.	肝胆膵外科	Lifetime Follow-Up of a Patient with Metastatic Prostate Cancer Undergoing Multiple Surgical Resections: A Case Report	The American journal of case reports. 2023 Nov 8; 24:e941668	Case report
38	Takeomi Hamada, Koichi Yano, Eiji Kitamura et al.	肝胆膵外科	An alternative option of the retroperitoneal laparoscopic approach for limited hepatectomy for recurrent hepatocellular carcinoma at the transected edge after previous hepatectomy	Asian J Endosc Surg. 2023 Jul; 16(3):567-57	Original Article
39	Atsushi Nanashima, Kengo Kai, Takeomi Hamada et al.	肝胆膵外科	Questionnaire survey of virtual reality experiences of digestive surgery at a rural academic institute: A pilot study for pre-surgical education	Turkish Journal of Surgery. 2023 Dec; 39 (4): 328-335	Original Article

40	Masahide Hiyoshi, Takashi Wada, Takeomi Hamada et al.	肝胆膵外科	Management and outcome of endoscopic retrograde cholangiopancreatography-related duodenal perforations: how to determine and what is recommended for surgical treatment?	Journal of Emergency Medicine Trauma & Surgical Care. 2023 Apr 20; 9: 067	Original Article
41	Kengo Kai, Masahide Hiyoshi, Naoya Imamura et al.	消化管・内分泌・小児外科	A Preliminary Pathological Evaluation of Extracellular Volume Fraction with Contrast-enhanced Computed Tomography as a Novel Quantitative Parameter of Pancreatic Fibrosis	Int Med. 2023 Apr; 62(8):1107-1115	Original Article
42	Kengo Kai, Takeomi Hamada, Tatefumi Sakae et al.	消化管・内分泌・小児外科	A case of multifocal sclerosis angiomatoid nodular transformations of the spleen occurring after partial splenic infarction with transcatheter arterial embolization for splenic artery aneurysm	Clin J Gastroenterol. 2024 Feb; 17(1):198-203	Case report
43	Ryuta Masuya, Yohei Tominaga, Kazuhiko Nakame et al.	消化管・内分泌・小児外科	A case of a galactocele that presented as a mammary mass in a boy	Pediatrics International. 2023 Nov 30; 65(1):e15705	Case report
44	Takahiro Ochiai, Shinsuke Takeno, Fumiaki Kawano et al.	消化管・内分泌・小児外科	Successful treatment of esophageal perforation due to black esophagus (acute esophageal necrosis): a case report	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases. 2023 Nov 16; 2:96	Case report

45	Ryuta Masuya, Kazuhiko Nakame, Kengo Kai et al.	消化管・内分泌・小児外科	An unusual presentation of a rare formation of the common hepatic duct and right hepatic artery in a case of pediatric congenital biliary dilatation	Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2024 Jan; 17(1):e13264	Original Article
46	Tomoaki Taniguchi, Koji Furukawa, Hirohito Ishii et al.	心臓血管外科	Single-Stage Surgical Treatment of Acute Type A Aortic Dissection and Blunt Abdominal Trauma: A Case Report	Annals of Vascular Diseases. 2023 Sep 25; 16(3):238-241	Case report
47	Mayu Inomata, Shoei Kuroki, Nobuyuki Oguri et al.	呼吸器・乳腺外科	Pleomorphic adenoma of the trachea: A case report	International Journal of Surgery Case Reports. 2023 Aug; 109:108499	Case report
48	Shoei Kuroki, Mayu Inomata, Ayako Matsuo et al.	呼吸器・乳腺外科	Radiological features and surgical management of lung abscess directly extending into the chest wall: A case report	International Journal of Surgery Case Reports. 2023 Oct; 111:108887	Case report
49	Mayu Inomata, Shoei Kuroki, Hiroshi Nakada et al.	呼吸器・乳腺外科	Radiological features of intrathoracic chronic expanding hematoma: A case report	International Journal of Surgery Case Reports. 2023 Sep; 110:108767	Original Article



50	Hiroyuki Imazato, Nobuyasu Takahashi, Yusuke Hirakawa et al.	整形外科	Three-dimensional fine structures in deep fascia revealed by combined use of cryo-fixed histochemistry and low-vacuum scanning microscopy	Scientific reports. 2023 Apr 18; 13(1):6352	Original Article
51	Hideaki Hamanaka, Takuya Tajima, Syuji Kurogi et al.	整形外科	Ureter position and risk of ureteral injury during lateral lumbar interbody fusion	Journal of Orthopaedic Science. 2023 May 25; S0949-2658(23)00130-6	Original Article
52	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	The anterior talofibular ligament ratio was greater in young men with generalized joint laxity than in those without generalized joint laxity	Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy. 2023 May; 31(5):1994-2000	Original Article
53	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	A case of nail-patella syndrome with osteochondral lesion of the lateral femoral condyle accompanied with anomalies of anterior horns of the menisci and lateral femoral condyle	Journal of Orthopaedic Science. 2023 Nov; 28(6):1543-1547	Original Article
54	Makoto Nagasawa, Takuya Tajima, Shuichi Kawagoe et al.	整形外科	Risk factors associated with throwing injuries in young baseball players	Journal of Shoulder and Elbow Surgery. 2023 Aug; 32(8):1673-1680	Original Article

55	Takuji Yokoe, Koki Ouchi, Yoichiro Yamaguchi et al.	整形外科	Shear stress in the medial meniscus posterior root during daily activities	Knee. 2023 Aug; 43:176-183	Original Article
56	Takuya Nagai, Tomohisa Sekimoto, Syuji Kurogi et al.	整形外科	Tmem161a regulates bone formation and bone strength through the P38 MAPK pathway	Scientific Reports. 2023 Sep 5; 13(1):14639	Original Article
57	Yudai Morita, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	Risk factors of failure results after double-bundle reconstruction with autogenous hamstring grafts for isolated posterior cruciate ligament rupture cases	Scientific Reports. 2024 Mar 14; 14(1):6192	Original Article
58	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Koki Ouchi et al.	整形外科	Differences in Retromalleolar Fibular Groove Morphology According to Level of Axial Computed Tomography Scans	Orthopaedic Journal of Sports Medicine. 2024 Mar 25; 12(3):23259671241237255	Original Article
59	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	Retrograde Autologous Talar Osteocancellous Bone Grafting for the Treatment of Osteochondral Lesions of the Talus: A Technical Note	Journal of Clinical Medicine. 2023 May 12; 12(10):3431	Others

60	Takuji Yokoe, Kazushi Uemichi, Takuya Tajima et al.	整形外科	Is the Small Ossicle of Type 1 Accessory Navicular a Cause of Foot Pain?—A Case Report	Medicina (Lithuania). 2023 Aug 28; 59(9):1562	Original Article
61	Koshiro Nishimoto, Tadashi Ogishima, Yuki Sugiura et al.	泌尿器科	Pathology and gene mutations of aldosterone-producing lesions	Endocr J. 2023 Dec 28; 70(12):1113-1122	Case report
62	Shoichi Kimura, Yukiya Fujisaki, Chie Onizuka et al.	泌尿器科	A case of hyperammonemia occurring during treatment of metastatic renal cell carcinoma with axitinib	IJU Case Reports. 2023 Apr 11; 6(4):206-210	Original Article
63	Hiroki Takamori, Takahiro Akioka, Isamu Otsuka et al.	泌尿器科	Bilateral long ureteral strictures were successfully replaced by ileum in inverse seven configuration: A case report	International Journal of Surgery Case Reports. 2024 Mar; 116:109357	Original Article
64	Yukiya Fujisaki, Isamu Otsuka, Takahiko Kobayashi et al.	泌尿器科	Use of the anterior prostatic urethral mucosa preservation technique during holmium laser enucleation of the prostate can reduce postoperative stress urinary incontinence	Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2024 Jan; 17(1):e13256	Original Article

65	Yoshi Miyamoto, Chihiro Kawasoe, Kaoru Ito et al.	泌尿器科	Hepatic and lung methotrexate-associated polymorphic lymphoproliferative disorders arising during postoperative follow-up of renal cell carcinoma: a case report	Journal of Medical Case Reports. 2023 Dec 22; 17(1):524	Original Article
66	Chihiro Kawasoe, Yoshi Miyamoto, Kaoru Ito et al.	泌尿器科	Epithelioid Angiomyolipoma with Tumor Thrombus into Inferior Vena Cava Presurgically Treated with Combination Therapy of Pembrolizumab and Axitinib: A Case Report	Research and Reports in Urology. 2023 Oct 5; 15:447-452	Original Article
67	Takako Hidaka, Hideki Chuman, Yasuhiro Ikeda	眼科	Evaluation of inner retinal function at different stages of primary open angle glaucoma using the photopic negative response (PhNR) measured by RETeval electroretinography	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2024 Jan; 262(1):161-169	Original Article
68	Sho Kurihara, Takeshi Nakamura, Kan Kubuki et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Hearing Outcome and Predictors after Implanting Bone Conduction or Middle Ear Implants in Ears with Refractory Otitis Media	J Clin Med. 2023 Jun 16; 12(12):4086	Original Article
69	Michiko Kurasawa, Takeshi Nakamura, Akira Ganaha et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Electrical promontory stimulation test using a portable peripheral nerve stimulator with an ear canal electrode	Auris Nasus Larynx. 2024 Feb; 51(1):76-81	Original Article

70	Masatoki Kaneko, Junsuke Muraoka, Li Yang et al.	産科・婦人科	Impact of COVID-19 on cytomegalovirus immunoglobulin M antibody index	Clinical and Experimental Obstetrics and Gynecology. 2023 Dec; 50(12), 279	Original Article
71	Naoshi Yamada, Masatoki Kaneko, Li Yang et al.	産科・婦人科	Cell-mediated and humoral immune responses to human cytomegalovirus in pregnant women with vertically transmitted infection following primary infection: A case report	Journal of Infection and Chemotherapy. 2023 Nov; 29(11):1071-1074	Case report
72	Masatoki Kaneko, Li Yang, Ayako Tanabe et al.	産科・婦人科	Prevalence of congenital cytomegalovirus infection according to the type of maternal infection in Japan	Journal of Infection and Chemotherapy. 2023 May; 29(5):485-489	Original Article
73	Norihiro Shinkawa, Nobuyasu Takahashi, Kiyoko Yano et al.	放射線科	A Suggested Mechanism for Green Discoloration of the Postmortem Brain	The American Journal of Forensic Medicine and Pathology. 2023 Jun 1; 44(2):132-135	Case report
74	Norihiro Shinkawa, Maki Imada, Minako Azuma et al.	放射線科	A clear presentation of intracranial hypostasis on PMCT	Journal of Forensic and Legal Medicine. 2023 Jul; 97:102540	Original Article

75	Norihiro Shinkawa, Masaki Marukawa, Kei Wada et al.	放射線科	Methodological considerations of the acetaminophen Detection Kit®: Involvement of molecular oxygen (O <sub>2</sub> ) in an indophenol reaction	Legal Medicine. 2023 Sep; 64:102278	Original Article
76	Souma Arikawa, Takashi Watanabe, Hideki Yamaguchi et al.	脳神経外科	Rare solitary pituitary metastasis of maxillary ameloblastic carcinoma: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons. 2023 Sep 4; 6(10):CASE23264	Case report
77	Shinji Yamashita, Hideo Takeshima, Nobuhiro Hata et al.	脳神経外科	Clinicopathologic analysis of pineal parenchymal tumors of intermediate differentiation: a multi-institutional cohort study by the Kyushu Neuro-Oncology Study Group	Journal of Neuro-Oncology. 2023 Apr; 162(2):425-433	Original Article
78	Fumitaka Matsumoto, Kiyotaka Yokogami, Ai Yamada et al.	脳神経外科	Targeting cholesterol biosynthesis for AT/RT: comprehensive expression analysis and validation in newly established AT/RT cell line	Human Cell. 2024 Mar; 37(2):523-530	Original Article
79	Natsuki Ogasawara, Shinji Yamashita, Koji Yamasaki et al.	脳神経外科	Spontaneous malignant transformation of trigeminal schwannoma: consideration of responsible gene alterations for tumorigenesis—a case report	Brain Tumor Pathology. 2023 Oct; 40(4):222-229	Original Article

80	Yu Yamaguma, Takeshi Kaneuji, Shinichiro Shirouzu et al.	齒科口腔外科・矯正齒科	Reconstruction of the defect resulting from resection of lip cancer using a tongue flap and V-Y advancement flap: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023 May; 241-243	Case report
81	Atsumu Kouketsu, Takeshi Kaneuji, Yu Yamaguma et al.	齒科口腔外科・矯正齒科	Microvascular reconstruction for oral cancer in older adult patients: the impact of age on surgical outcomes	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology. 2024 Jan; 137(1):6-11	Original Article
82	Kazunari Maekawa, Daisuke Kuroki, Takeomi Hamada et al.	病理診断科	Non-ampullary duodenal neoplasm of gastric phenotype showing multidirectional epithelial differentiation	Pathology International. 2023 May; 73(5):212-215	Case report
83	Toshihiro Gi, Yasuyoshi Kuroiwa, Yasushi Kihara et al.	病理診断科	Magnetic resonance imaging of cancer-associated deep vein thrombus in a patient with gastric cancer	Circulation report. 2023 Apr 14; 5(6):265-266	Case report
84	Kazunari Maekawa, Eiji Nagayasu, Youichi Hata et al.	病理診断科	Paragonimus westermani preadult fluke in a pulmonary necrotizing granulomatous lesion: A case associated with eating soy sauce-marinated raw freshwater crab, "gejang"	Pathology International. 2023 Aug; 73(8):373-376	Case report

85	Tomoyuki Otani, Sayaka Moriguchi-Goto, Kensaku Nishihira et al.	病理診断科	Intralesional pentraxin 3 increases with atherosclerotic disease progression, but may protect from thrombosis: Friend or foe?	Thrombosis Research. 2024 Feb; 234:134-141	Original Article
86	Atsushi Yamashita, Tomoaki Oda, Murasaki Aman et al.	病理診断科	Massive platelet-rich thrombus formation in small pulmonary vessels in amniotic fluid embolism: An autopsy study	An International Journal of Obstetrics & Gynaecology. 2023 Dec; 130(13):1685-1696	Original Article
87	Katsumi Kawano, Yuki Hashikura, Kunihiko Umekita	検査部	Purification Method of Extracellular Vesicles Derived from Human T-Cell Leukemia Virus Type 1-Infected Cells without Virions	Viruses. 2024 Feb 4; 16(2):249	Original Article
88	Mayumi Akaki Nagayasu, Hiroyuki Tanaka, Kyoko Nogami et al.	検査部	Cutaneous syncytial myoepithelioma with folliculocentric growth and EWSR1 gene rearrangement: A case report	Journal of cutaneous pathology. 2023 May; 50(5):400-404	Case report
89	Kento Hojo, Tomohiro Abe, Katsutoshi Saito et al.	救命救急センター	A pediatric case of multiple trauma with impending cardiac arrest due to hemorrhagic shock successfully treated with resuscitative thoracotomy: A case report	Acute medicine & surgery. 2023 Jul 3; 10(1):e867	Case report



90	Yoshihiro Miyake, Tomohiro Abe, Akira Suekane et al.	救命救急センター	Venous Thoracic Outlet Syndrome with an Upper Extremity Deep Vein Thrombosis Caused by a Dislocated Clavicle Fracture: A Case Report	The American journal of case reports. 2023 Jul 11; 24:e939250	Case report
91	Takuya Kuroki, Tomohiro Abe, Ryo Kawana et al.	救命救急センター	Successful Treatment of Sepsis-Induced Cardiomyopathy with Intra-Aortic Balloon Pumping: A Case Report and Literature Review	The American journal of case reports. 2023 Oct 30; 24:e941098	Case report
92	Go Takeishi, Shinji Yamashita, Fumitaka Matsumoto et al.	救命救急センター	Epidemiological Study of Metastatic Brain Tumors in Miyazaki Prefecture: A Regional 10-year Survey in Southern Japan	Neurologia Medico-Chirurgica. 2024 Feb 15; 64(2):87-92	Original Article
93	Tomohiro Koshida, Toyoaki Maruta, Nobuhiko Tanaka et al.	集中治療部	Changes in TRPV1 Receptor, CGRP, and BDNF Expression in Rat Dorsal Root Ganglion with Resiniferatoxin-Induced Neuropathic Pain: Modulation by Pulsed Radiofrequency Applied to the Sciatic Nerve	Acta Medica Okayama. 2023 Aug; 77(4):359-364	Original Article
94	Jun Nakatake, Hideki Arakawa, Maeda Shogo et al.	リハビリテーション部	Effect of age on upper limb, neck, and trunk kinematics during activities of daily living	Heliyon. 2023 Oct ; 9(10):e20535	Original Article

95	Shigeaki Miyazaki, Go Yamako, Ryo Kimura et al.	リハビリテーション部	Development of a video camera-type kayak motion capture system to measure water kayaking	PeerJ. 2023 Jul 21; 11:e15227	Original Article
96	Shigeaki Miyazaki, Go Yamako, Hideki Arakawa et al.	リハビリテーション部	Weight-shifting-based robot control system improves the weight-bearing rate and balance ability of the static standing position in hip osteoarthritis patients: a randomized controlled trial focusing on outcomes after total hip	PeerJ. 2023 May 17; 11:e15397	Original Article
97	Jun Nakatake, Hideki Arakawa, Takuya Tajima et al.	リハビリテーション部	Age- and sex-related differences in upper-body joint and endpoint kinematics during a drinking task in healthy adults	PeerJ. 2023 Dec 19; 11:e16571	Original Article
98	Naoki Haraguchi, Hiroyuki Nakao, Yoichi Sakakibara et al.	栄養管理部	Effects of sturgeon fillet intake on top-ranked Japanese female long-distance runners	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2023 Aug; 49(8):2164-2174	Original Article
99	Yusei Yamada, Madoka Fukaura-Nishizawa, Asami Nishiyama et al.	薬剤部	Different solubilizing ability of cyclodextrin derivatives for cholesterol in Niemann-Pick disease type C treatment	Clinical and Translational Medicine. 2023 Aug; 13(8):e1350	Original Article

100	Saya Ishii, Mineo Ozaki, Norito Takamura et al.	薬剤部	Influence of Endogenous Substances on Site-II to Site-I Displacement of Diclofenac Bound to Albumin in the Aqueous Humor of Patients with Cataract	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2024 Jan 20; 47(1):213- 220	Original Article
-----	---	-----	---	--	------------------

計100件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 申請の方法、審査の方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 7 回 (持ち回り審査は随時実施)

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回 (持ち回り審査は随時実施)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回 (録画した講習をオンデマンドで視聴可)
・ 研修の主な内容 臨床研究に関する基礎知識、指針改正の概要、不適合事案の予防策等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。  
また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を  
開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師  
に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	194 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
海北 幸一	循環器内科 ・腎臓内科	教授	33年	
下田 和哉	肝臓内科 ・血液内科	教授	36年	
宮崎 泰可	呼吸器内科 ・膠原病・感染症 内科 ・脳神経内科	教授	26年	
河上 洋	消化器内科	教授	28年	
平野 羊嗣	精神科	准教授	24年	
盛武 浩	小児科	教授	30年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	35年	
武野 慎祐 中目 和彦	消化管・内分泌・ 小児外科	准教授 講師	33年 28年	
古川 貢之	心臓血管外科	教授	29年	
前田 亮	呼吸器・乳腺外 科	准教授	22年	
伊東 大	形成外科	准教授	29年	
坂本 武郎	整形外科	助教	32年	
天野 正宏	皮膚科	教授	37年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	36年	
池田 康博	眼科	教授	29年	
高橋 邦行	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	26年	
桂木 真司	産科・婦人科	教授	29年	
東 美菜子	放射線科	教授	16年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	32年	
横上 聖貴	脳神経外科	准教授	35年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	30年	
佐藤 勇一郎	病理診断科	教授	33年	

細川 歩	臨床腫瘍科	教授	29年	
落合 秀信	救急科	教授	35年	
荒川 英樹	リハビリテーション科	教授	26年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 第46回宮崎リハビリテーション研究会 ・研修の期間・実施回数 1回：令和6年2月10日 ・研修の参加人数 91名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
令和5年度第1回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「医療放射線の安全管理」 ②感染部門 「手術部位感染対策をサーベイランスと現地現物で考える」	講演会	年1回	2023年6月5日	302名
令和5年度第2回医療安全管理・感染対策講演会	①感染部門 「微生物検査の適切な検体採取とアンチバイオグラムの活用について」 ②医療安全管理部門 「しなやかな現場力で成功を確かなものにする」	講演会	年1回	2023年7月21日	305名
令和5年度第3回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「生体情報モニタのチャンネル管理について」 ②感染部門 「当院の感染対策 UP-TODATE2023」	講演会	年1回	2023年10月5日	206名
令和5年度第4回医療安全管理・感染対策講演会	①感染部門 「当院の抗菌薬適正使用の状況報告」 ②医療安全管理部門 「医薬品に関する医療安全を確保するために」	講演会	年1回	2023年11月7日	178名
業務委託先従業員に対する医療安全管理及び感染対策に関する研修	医療安全管理・感染対策について	講演会 DVD研修	9回	2023年	290名
令和5年第1回、第2回医療安全管理・感染対策講演会	令和5年第1回及び第2回の講演会を収録したDVDを上映	DVD上映	2回	2023年9月4日、9月6日、9月7日、9月8日	第1回（6月5日）上映分（110名） 第2回（7月21日）上映分（102名）
令和5年第1回～第4回医療安全管理・感染対策講演会	令和5年第1回～第4回医療安全管理・感染対策講演会をまとめたもの	e-ラーニング	年1回	2024年1月5日～2024年2月29日	2486名
令和5年度特定機能病院承認要件に定めるe-ラーニング職員研修	①改めて安全管理を考える ②医薬品の安全使用について ③計量機器安全管理 ④安全なMRI検査の実施	e-ラーニング	年1回	2023年10月2日～2023年12月28日	1519名
全職員対象BLS講習会	一次救命処置（BLS）教育講習	実技講習	11回	4/10 5/8 6/12 7/10 9/11 10/16 11/13 12/11 1/15 2/19 3/18	5名 7名 9名 9名 9名 11名 9名 11名 11名 10名 9名 合計100名
全職員対象BLS講習会	宮崎大学医学部附属病院 BLS 講習会	実技講習	2回	4/28 5/30	45名 11名 合計56名
ロジスティクス研修会	①災害時の情報管理とクロノロジー ②EMIS、院内EMIS訓練 ③衛星携帯電話、簡易無線を用いた情報伝達 ④院内災害対策本部運営訓練 ⑤院内大規模災害訓練 ⑥振り返り、修了式	講義、実習	年6回	①2023年6月28日 ②2023年7月10日 ③2023年8月30日 ④2023年10月31日 ⑤2023年11月24日 ⑥2024年3月19日	8名
START式トリアージ講習会	①基礎講義 ②トリアージ実技演習 ③止血帯実技演習	講義、実習	年1回	2023年7月31日	28名
事務職員対象傷病者搬送研修	ストレッチャーや車いすの使用方法について	講義、演習	年1回	2023年11月8日	15名
附属病院新規採用者オリエンテーション	・医療情報の取り扱いについて ・患者の権利と臨床倫理 ・医療安全管理 ・診療録記載と保険診療の留意点 ・標準予防策と職業病感染防止 ・医薬品の安全使用について ・医療機器について ・SNSをめぐる個人情報保護 ・SNSをめぐる情報モラル	オリエンテーション講義及びe-ラーニング	年度初め1回 随時	2023年4月3日～4月4日 随時	186名
復職者研修	・医療情報の取り扱いについて ・患者の権利と臨床倫理 ・医療安全管理 ・診療録記載と保険診療の留意点 ・標準予防策と職業病感染防止 ・医薬品の安全使用について ・医療機器について ・SNSをめぐる個人情報保護 ・SNSをめぐる情報モラル	e-ラーニング	随時	随時	8名



2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
保険診療に関する講習会の開催について	令和5年度保険診療に関する講習会 「診療録記載と保険診療の留意点」	講習会	年2回	第1回 2023/8/29～ 2023/9/29	
保険診療に関する講習会の開催について	令和5年度保険診療に関する講習会 ①「長期療養者就職支援事業の概要と取り組みについて」 ②「難病患者様の就職支援について」 ③「診療報酬明細書に関する注意事項」 ④「DPCコーディングについて」	講習会	年2回	第2回 2024/2/27～ 2024/3/12	
ドクターズクラーク32時間研修	①医師法、医療法、医薬品医療機器等法、健康保険法等の関連法規の概要 ②個人情報の保護に関する事項 ③当院で提供される一般的な医療内容及び各配置部門における医療内容や用語等 ④診療録等の記載・管理及代筆、代行入力 ⑤電子カルテシステム（オーダーリングシステムを含む）	講義 e-learning	年2回	第1回 2023/4/4～ 2023/4/28 第2回 2023/7/4～ 2023/11/15	4名
看護倫理 I	1) 看護倫理とは 2) 「徳の倫理」と「原則の倫理」について 3) 倫理的ジレンマについて 4) 事例をもとに、倫理的問題に気づく	講義 演習	31	6月23日（金） 15:00～16:00	46
フィジカルアセスメント I	フィジカルアセスメント ・身体機能別 (呼吸器系、循環器系、消化器系、感覚器系、運動系、 中枢神経系毎に) データ (情報) のアセスメント	講義 演習	1	6月2日（金） <講義> 8:50～9:30 講義は一斉受講 6月2日（金） <演習> ①9:45～10:05 ②10:20～10:40 ③13:30～13:50 ④14:05～14:25 ①②③④のいずれかに参加	42
心理・社会的側面のヘルスアセスメント I	プロセスレコードを用い、実践した看護場面の再構成 1) 理論をもとに、患者心理を理解する 2) 自分の行動を客観的に見つめる	プロセスレコードの振り返り	42	7月～12月	42
看護過程 I	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	42	7月～12月	42
認知症の人とのコミュニケーション ※クリニカルラダー I 申請予定者以外でも、自分の時間で参加可	1) 認知症について 2) 認知症の人のコミュニケーションの特徴 3) 認知症の人とのコミュニケーションのポイント	講義	1	8月8日（火） 17:00～18:00	40
今日からできる摂食・嚥下・口腔ケア ※クリニカルラダー I 申請予定者以外でも、自分の時間で参加可	1) 摂食・嚥下・口腔ケアとは 2) 嚥下の評価について 3) 食事介助の具体的な方法	講義	1	8月24日（木） 17:00～18:00	47
チーム医療 I	1) チーム医療における看護師の役割について 2) 相手を理解するコミュニケーション	講義 演習	1	7月10日（月） ①13:00～14:30 ②15:00～16:30 ①②のいずれかに参加	41
看護研究 I	学研e-ラーニング 「看護研究とは？どうして研究するの？」	e-ラーニング	1	6月14日（水） 14:30～15:30	41
看護倫理 II	1) Jonsenの4分割法とその活用方法の学習	講義	1	6月29日（木） 15:45～16:45	31
看護倫理 II	2) 臨床での倫理的問題を、Jonsenの4分割法を用いた情報整理・分析し、カンファレンスで検討する	事例検討	31	7月～12月	31
フィジカルアセスメント II	事例を通して以下の内容を学ぶ 1) 臨床推論 2) 呼吸と循環のフィジカルアセスメント (1) 受け持ち患者のフィジカルアセスメントを行い、看護ケアの実施、評価を行う	e-ラーニング 講義	1	7月4日（火） 15:15～16:45	31
心理・社会的側面のヘルスアセスメント II	プロセスレコードを用い、実践した看護場面の再構成 1) 理論をもとに、患者心理を理解する 2) 自分の行動を客観的に見つめる	プロセスレコードを用いた振り返り	36	7月～12月	36
人工呼吸器装着患者の看護	知識：学研e-ラーニング 「明日からのケアも怖くない！人工呼吸器ベーシック」	e-ラーニング	1	5月19日（金） 13:30～14:30	30
人工呼吸器装着患者の看護	技術： 自部署・集中治療部・救命救急センターでの実習	演習と実習	14	6月～11月	14
人工呼吸器装着患者の看護	技術： 自部署・集中治療部・救命救急センターでの実習	演習と実習	15	6月～12月	15
リーダーシップ研修	1) リーダーに求められる役割について 2) リーダーシップについて 3) リーダーの役割を振り返り、課題を見つける	講義 演習	1	7月28日（金） 15:00～16:30	31
看護研究 II	1) 学研e-ラーニング「研究デザインを理解する」	e-ラーニング	1	8月9日（水） 14:30～15:30	37

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
看護研究Ⅱ	2) ミニレクチャー (※ラダー申請には不要) ・簡単な文献検索方法 ・研究テーマの絞り込み等	ラダー申請には不要 講義・演習 ミニレクチャー (4回実施)	4	1回目 5月10日 (水) 2回目 7月12日 (水) 3回目 10月11日 (水) 3回とも 16:45~17:15	1回目: 10 2回目: 15 3回目: 9 4回目: 11
プリセプター研修	1) 当院の新人教育プログラムについて 2) プリセプターの役割について 3) 新人の特性に合わせた支援について	講義 演習	1	4月28日 (金) 15:00~16:45	30
看護倫理Ⅲ	1) 患者の意思決定支援について 2) アドバンス・ケア・プランニングとは 3) 患者に合わせたアドバンス・ケア・プランニング 4) 事例をもとに、患者・家族の意思決定についての問題とその支援を考える	講義	1	6月19日 (月) 15:45~16:45	7
リフレクションⅢ	1) 自己のリフレクティブジャーナルを用いたグループ討議 <受講後> 2) 新人看護師が記載したリフレクティブジャーナルを用いたリフレクションの実施	講義 演習	1	6月9日 (金) 16:50~17:50	8
看護過程Ⅲ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	16	4月~10月	16
チーム医療Ⅲ	訪問看護ステーションでの実習	実習	9	6月~8月	18
臨地実習指導者研修	1) 臨地実習の意義について 2) 看護基礎教育について 3) 臨地実習指導者の役割と業務について 4) 実習指導者に求められる力 ・看護過程を展開する力 ・伝える力 ・対人関係を築く力 ・指導する力 ・生涯にわたって自己研鑽する力	講義 グループワーク	1	7月7日 (金) 16:50~17:50	22
問題解決Ⅲ	1) 問題解決技法について (クロスSWOT分析) 2) 問題解決プロセスについて	講義 演習	1	4月25日 (火) 15:45~16:45	12
看護倫理Ⅳ	倫理的問題に対する医療チームによる介入方法について ・「倫理」とは ・「倫理的に考える力= (倫理的推論)」を鍛える トレーニング ・倫理的推論のスキルとしての「4分割法」 ・「ジレンマ」とは ・「同情」と「共感」の違い	講義 演習	1	6月16日 (金) 15:15~16:45	1
看護過程Ⅳ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	1	4月~10月	1
問題解決Ⅳ	問題解決の過程をレポートにまとめる	問題解決Ⅳレポート	1	4月~10月	1
静脈注射 (中心静脈ポート編)	1) 中心静脈ポートとは 2) 中心静脈ポートからの薬剤投与について 3) 中心静脈ポート管理上の注意事項について 4) モデルを使用した中心静脈ポートの穿刺と抜針の演習	講義 演習	1	講義・演習 10月3日 (火) 15:00~16:30	11
静脈注射 (中心静脈ポート編)	中心静脈ポートの穿刺と抜針の実習	実習	12	8月~12月	12
【院内認定看護師・養成研修】災害支援ナース	1) 院内認定看護師「災害支援ナース」の役割 2) 災害に関する基礎知識 3) 災害時に備え、部署の事前対策 4) 災害時に備え、災害時の対応ができるスタッフの育成 5) 災害時、患者・スタッフの安全を確保するためのリーダーの役割 6) 災害下での患者・スタッフのストレス対応とその支援方法	講義 演習	1	① 9月26日 (火) ② 10月26日 (木) ③ 11月29日 (水) 全日 13:30~16:45 テスト: 12月20日 (水) 17:00~18:00	①: 8 ②: 8 ③: 8
【院内認定看護師・フォローアップ研修】スキンケア	1) WOC領域の最新の情報について ・医療DX (デジタル・トランスフォーメーション) ・手術室での褥瘡対策、集中治療領域での褥瘡対策 ・Microclimate (マイクロクライメイト) の管理 2) 管理困難なストーマ患者事例への介入 ・ストーマ貼付部位の皮膚の特徴 ・ストーマ周囲皮膚障害とその対策 ・ストーマ装具を安定して貼付できない要因がある場合の対応	講義 演習	1	10月16日 (月) 15:00~16:00	16
【院内認定看護師・フォローアップ研修】重症集中ケアクリティカルケア	1) 集中ケア、クリティカルケア領域の最新の情報 ・RRSについて ・当院におけるRRSの運用 ・患者の状態変化に気づくこと ・心肺蘇生ガイドライン2020について	講義 演習	1	10月24日 (火) 15:00~16:00	16

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
【院内認定看護師：フォローアップ研修】 インфекションコントロール(IC)	1) 新型コロナウイルス、インフルエンザ同時流行の危険性について 2) 新型コロナウイルスとインフルエンザとの違い 3) 感染経路について 4) 流行期の通常からの対策について 5) 院内感染患者発生時の対応 6) 演習（病棟で新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス感染患者が同時発生した場合の対応を考える）	講義 演習	1	11月7日（火） 15：00～16：00	8
【院内認定看護師：フォローアップ研修】 呼吸ケア 呼吸理学療法	1) 低酸素の分類について 2) 意識レベルの評価について 3) 事例検討（事例患者の状態をアセスメントし、その対応を考える）	講義 演習	1	11月15日（水） ①14：00～15：00 ②15：30～16：30 同じ内容で2回実施	20
倫理的感受性を高めよう (Fry:倫理的感受性とは倫理的意思決定プロセスにおける臨床問題に気づく能力)	1) 「看護職の倫理綱領」16項目の行動指針について（看護職の倫理的な役割と責任について吟味する） 2) 倫理的問題とは。その定義について 3) 倫理的問題に気づいた時の対応について	講義	1	4月10日（月） 13：00～14：00	58
リフレクション	入職3ヶ月、9ヶ月時にリフレクティブジャーナルを記載し、自己の経験の意味を考える	リフレクティブジャーナルを用いた振り返り	1	各看護単位で実施 ※部署で回数を増やす場合は時間外扱いとする	1回目：49 2回目：44
フィジカルアセスメント	1) 基本技術である視診・触診・聴診の手法 2) 心電図モニター、12誘導心電図の装着と波形の意味について 3) 体液のバランス（生存のために必要な体液の恒常性について）	講義	1	4月6日（木） 1) 13：45～14：25 2) 14：25～15：05 3) 15：05～15：45	59
心理・社会的側面のヘルスアセスメント	1) ニード理論、成長・発達理論、ストレス・適応理論について 2) 受け持ち患者の心理、社会的側面のアセスメント	講義	1	5月15日（月） 14：00～15：00	58
医療安全のための基礎技術	1) ～6) の演習 1) 患者確認・指示確認の方法（内服薬・麻薬） 2) 患者確認・指示確認の方法（注射薬） 3) 注射準備 4) 感染予防対策 5) 輸液ポンプ 6) シリンジポンプ	講義 演習	1	4月7日（金） 8：10～16：35	59
実践前研修	1) ～7) の演習 1) 経管栄養法 2) 導尿 3) 膀胱内留置カテーテル挿入 4) 浣腸 5) 筋肉内注射 6) 静脈採血と検体の取り扱い 7) 食事介助（嚥下障害がある場合）	演習	11	5月～8月	47
フォローアップ研修	1) ～8) の演習 1) 摘便 2) 吸引 3) 人工呼吸器の管理 4) 直腸内与薬 5) 中心静脈内注射の管理 6) 輸血の準備、輸血中・後の観察 7) インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察 8) 死後の保清と整容	演習	46	10月～令和6年1月	44
褥瘡予防ケア 呼吸ケア	1) 褥瘡の成り立ちと予防の基本的知識 2) 褥瘡予防のためのケアについて 3) 演習（安楽な体位、呼吸ケア）	講義 演習	1	6月6日（火） 13：00～16：45 6月7日（水） ①8：00～11：45 ②13：00～16：45	59
せん妄予防	1) 不穏・認知症との違い 2) せん妄の特徴と観察ポイントについて 3) せん妄の具体的な予防ケア 4) せん妄患者の看護ケア	講義	1	9月11日（金） 15：30～16：30	55
静脈注射（初級編）	<講義> 1) 薬の作用、副作用について 2) 感染・針刺し事故防止 3) 解剖学(安全な部位) 4) 留置針による血管確保 5) 静脈注射の院内取り決めについて DVD視聴 <演習> 6) 血管穿刺の実際 ・シミュレーターを用いた演習	講義 演習	2	<知識編> 中途採用看護職： 4月17日（月） 15：00～16：45 新人看護職員： 7月14日（金） 15：00～16：45  <技術編> 中途採用看護職： 5月12日（金） 15：00～16：00 新人看護職員： 8月3日（木） ①10：00～11：30 ②13：00～14：30 ③15：00～16：30	知識編：57 技術編：58
静脈注射（麻薬編）	1) 麻薬の作用 2) 疼痛コントロール 3) シリンジポンプでの麻薬の投与方法の注意点 4) PCAポンプの操作	講義	2	<中途採用看護職・静脈注射（初級編）修了者の未受講者> 6月26日（月） 15：00～16：00 <新人看護職員> 11月27日（月） 15：00～16：00	59

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
静脈注射（抗がん薬編）	1) 抗がん薬の作用と急性期の副作用について 2) 曝露対策について 3) 血管外漏出対策について 4) 投与管理の実際について	講義 演習	2	<中途採用看護職・静脈注射（初級編）修了者の未受講者> 6月12日（月） 15：00～16：00 <新人看護職員> 11月10日（金） 15：00～16：00	65
救急蘇生（BLS, AED, 気管挿管）	部署の状況をふまえた急変時の対応 ・救急処置の演習	講義 演習	14	各看護単位実施	44
看護記録	①看護記録の目的・法的位置づけ ②看護記録の倫理的配慮、カルテ開示について ③当院の看護記録の記載方法について	講義	1	4月10日（月） 14：10～15：10	59
看護過程	1) 主観的情報、客観的情報を収集する方法について ・コミュニケーション技法 ・電子カルテからの収集方法	講義	1	5月25日（木） 15：10～16：10	59
看護過程	2) 患者支援センター見学のオリエンテーション 患者支援センターでの見学実習	講義 見学実習	講義：1 実習：8	5月25日（木） 16：15～16：45 ※実習 5月30日（火） 6月1日（木） 6月2日（金） 6月6日（火） 6月8日（木） 6月13日（火） 6月15日（木） 6月16日（金） ※いずれも13:30～15:30で実施	48
看護過程	3) 受け持ち患者の事例展開 ・入院時の情報収集、計画立案から評価まで	事例検討	1	各看護単位実施	44
STAS-J	1) STAS-Jについて 2) STAS-Jの評価方法について 演習：事例を用いて実際に評価する	講義	1	9月6日（水） 17：00～18：00	54
新人看護師研修 ー2年目に向けての課題を見つけようー	チーム医療における看護師の役割について (KJ法的手法を用いたグループワーク)	グループ ワーク	1	令和6年1月24日 (水) 13：45～16：45	44
新人看護師のためのリフレッシュ研修	1) リアリティショックとは 2) リアリティショックの対処法について 3) セルフコントロールの方法について 4) グループワーク	講義 グループ ワーク	1	【入職後3ヶ月】 5月26日（金） 15：45～16：45 【入職後7ヶ月】 10月31日（火） 15：45～16：45	【入職後 3ヶ月】48 【入職後 7ヶ月】44
中途採用看護職のリフレッシュ研修	現状の情報交換と意見交換	講義 グループ ワーク	1	7月25日（火） 15：45～16：45	10
コンピテンシー学習会 ステップ I	「コンピテンシーを活用した看護管理者の育成」参照	グループ ワーク	32	5月～3月	7
重症度、医療・看護必要度	1) 診療報酬と入院基本料に求められる 「重症度、医療・看護必要度」について 2) 演習：事例を用いて実際に評価する	e-ラーニ ング	1	5月15日（月） 15:35～15:50	392
STAS-J	1) STAS-Jについて 2) STAS-Jの評価方法について 演習：事例を用いて実際に評価する	講義	1	9月6日（水） 17：00～18：00	19
看護補助者との協働	1) 看護職と看護補助者との協働推進の背景 2) 看護補助者の教育・研修 3) 看護補助者と協働する看護業務の基本的な考え方 4) 看護補助者との協働のためのコミュニケーション 5) 診療報酬における看護補助者の評価	講義 (DVD視聴)	257	看護単位で 随時随時開催	47
英語研修	英会話	講義	アドバンス：8 ベーシック： 8	6月15日以降 の木曜日 17：30～19：00	アドバンス：5 ベーシック：8
年度途中採用者研修	入職時オリエンテーション 医療安全 静脈内採血 電子カルテの操作 情報セキュリティ 静脈内採血 他	講義、 e-ラーニ ング、演習	6	4月1日 4月5日 6月2日 1月16日、17日 2月1日、2日 3月1日、4日	6

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
復帰者研修	医療安全 静脈内採血 電子カルテの操作 情報セキュリティ	講義	13	4月3日 4月13日 4月17日 5月16日 7月28日 9月1日 10月2日 11月1日 12月1日 12月5日 1月9日 2月13日 3月1日	32
新任者研修 (副看護部長、看護部長、副看護部長)	【看護師着、副看護部長】 1. 看護管理者の役割と役割達成に必要な能力 2. 看護部長のビジョン、看護部のパフォーマンス体制 3. 看護部長、副看護部長に望むこと 【副看護部長】 1. 国立大学附属病院の副看護部長の役割 2. 宮崎大学医学部附属病院の副看護部長の役割 3. 新任副看護部長へのメッセージ	講義	1	3月25日	7
学生看護補助者 (SNA) 研修	・医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 ・医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解 ・看護補助者業務を遂行するための基本的な知識・技術 ・日常生活に関わる業務 ・守秘義務、個人情報の保護 ・看護補助者業務における医療安全と感染防止	講義 演習	8	2023年 4月5日 5月12日 6月19日 8月12日 1月10日 2月5日 3月13日 3月14日 随時	16
看護補助者研修 知識編・技術編	・医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 ・医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解 ・看護補助者業務を遂行するための基本的な知識・技術 ・日常生活に関わる業務 ・守秘義務、個人情報の保護 ・看護補助者業務における医療安全と感染防止	講義 (e-ラーニング) 演習	知識編：82 技術編：3	2023年 知識編 技術編 10月11日 10月12日 10月16日	講義：92 演習：69
暴言・暴力研修会	暴言・暴力・クレームに繋がる発生要因、トラブルを未然に防ぐ挨拶・声掛け、暴言・悪質クレームへの対応、身の危険を感じる暴力事件発生時の具体的な対応策	講義	年1回	2024/3/6	20名
危機管理マニュアル研修会	防災対策マニュアル、BCPについてスライドにて説明研修実施	講義	年1回	2023/5/19	15名
LIS研修会	検体検査システム、細菌検査システム、生理検査システムについてスライドおよび口頭による説明研修	講義	年1回	2023/5/19	15名
ISO研修会	①ISO15189の4章（品質）に関する研修をスライドおよび口頭にて実施 ②ISO15189の5章（技術）に関する研修をスライドおよび口頭にて実施	講義	年1回 新入・異動時	①2023/4/10 ②2023/4/17 ③2023/4/25 ④2023/7/5	12名
心肺蘇生・AED講習会	AED使用法、救命の手順、胸骨圧迫実技、除細動装置をAEDに切り替える方法	実技講習	年1回	①2023/6/2	10名
時間外・緊急検査業務研修会	生化学検査、血液・血清検査、尿検査、細菌検査、生理検査における時間外・緊急検査の研修をスライドおよび口頭で実施	講義	年1回	2023/6/9	16名
検査部抄読会	症例報告、英語の文献紹介、研究報告等	講義	年11回	①2023/7/5 ②2023/9/6 ③2023/9/20 ④2023/10/4 ⑤2023/11/1 ⑥2023/11/15 ⑦2023/12/6 ⑧2023/12/20 ⑨2024/1/17 ⑩2024/2/7 ⑪2024/3/13	
接遇・コミュニケーション	接遇・コミュニケーションについてスライドを用いて実施	講義	年1回	2026/7/12	15名

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
リハビリテーション合同カンファレンス	R5. 4. 24 症例1. Discoid歪全摘後OA 受動術後（整形外科） 症例2. 辺縁系脳炎（脳神経内科） R5. 5. 22 症例1. 頸椎硬膜外膿瘍（整形外科） R5. 7. 24 症例1. 舌癌、食道癌（歯科口腔外科） 症例2. アテローム血栓性脳梗塞（脳神経内科） R5. 8. 21 症例1. 筋萎縮性側索硬化症（脳神経内科） 症例2. 舟状骨骨折、化膿性足関節炎（整形外科） R5. 9. 25 症例1. 左後天性脚長不等（整形外科） 症例2. ファイファー症候群（小児科） R5. 11. 20 症例1. 下咽頭がん（耳鼻頭頸科） 症例2. ギランバレー症候群（脳神経内科） R5. 12. 18 症例1. 左舌癌の術後（歯科口腔外科） 症例2. 両側性形成不全症 股関節症（整形外科） R6. 1. 22 症例1. 左右橈骨遠位端骨折（整形外科） 症例2. てんかん重積（脳神経内科） R6. 2. 19 症例1. 感染性筋炎（脳神経内科） 症例2. 脳腫瘍（脳神経外科） R6. 3. 18 症例1. 右大腿骨骨切り術（整形外科） 症例2. Perry病（脳神経内科）	カンファレンス	年10回	R5. 4. 24 R5. 5. 22 R5. 7. 24 R5. 8. 21 R5. 9. 25 R5. 11. 20 R5. 12. 18 R6. 1. 22 R6. 2. 19 R6. 3. 18	30名
定期勉強会	R5. 4. 19：サルコペニア・フレイルに対する運動療法 R5. 5. 17：身体機能再獲得を目指す運動療法による復帰支援 R5. 6. 14：高次脳機能障害に対するリハビリテーションの経験 R5. 7. 19：誤嚥性肺炎の治療・予防のための投薬 R5. 8. 16：人工呼吸管理中のモニタリングについて R5. 9. 13：脳画像を少し理解する R5. 10. 18：がん患者の「リハビリテーション」地域連携実践 R5. 11. 15：胎児・新生児の発達に関する科学的背景と新生児リハビリテーションのエビデンスの現状 R5. 12. 13：呼吸器理学療法法の臨床的評価とアプローチ R6. 1. 17：人工膝関節置換術後の急性期における歩数の変動が疼痛と身体活動に及ぼす影響 R6. 2. 14：社会復帰を目指す高次脳機能障害リハビリテーション R5. 3. 13：脳画像を活用するための基礎知識と実際の見方	勉強会形式	年12回	毎月1回水曜日 R5. 4. 19 R5. 5. 17 R5. 6. 14 R5. 7. 19 R5. 8. 16 R5. 9. 13 R5. 10. 18 R5. 11. 15 R5. 12. 13 R6. 1. 17 R6. 2. 14 R5. 3. 13	30名
言語聴覚療法士勉強会	R4. 04. 20 症例検討（右側頭葉神経膠腫により健忘失語を呈した1例） R4. 05. 18 症例検討（神経サルコイドーシスによって口腔期を中心とする摂食嚥下障害、構音障害を呈した症例） R4. 06. 15 症例検討（神経サルコイドーシスによって口腔期を中心とする摂食嚥下障害、構音障害を呈した症例） R4. 07. 20 症例検討（初期評価の内容について） R4. 09. 07 初期評価～訓練立案までの流れ R4. 10. 19 喉頭摘出患者への訓練について R4. 11. 16 症例検討（初期評価の内容について） R5. 01. 18 症例検討（嚥下訓練の進め方について） R5. 02. 15 症例検討（口蓋裂外来の初期評価について） R5. 03. 27 症例検討（吞気症について）	勉強会形式	年10回	R4. 04. 20 R4. 05. 18 R4. 06. 15 R4. 07. 20 R4. 09. 07 R4. 10. 19 R4. 11. 16 R5. 01. 18 R5. 02. 15 R5. 03. 27	言語聴覚士 全員(5名)
理学療法士勉強会	R5. 05. 17 がんのリハビリテーションについて R5. 07. 11 心電図・ペースメーカーの基礎知識について R5. 09. 04 心臓リハビリテーションについて R5. 11. 22 感染対策について R6. 01. 29 腰痛について	講義形式、実技	年5回	R5. 05. 17 R5. 07. 11 R5. 09. 04 R5. 11. 22 R6. 01. 29	17名
作業療法士勉強会	R5. 04. 11 作業療法チームの方針について R5. 10. 10 症例報告 （日本リハビリテーション医学会秋季学術集会演題予演会） R6. 01. 09 症例報告 （宮崎リハビリテーション研究会演題予演会）	講義	年3回	R5. 04. 11 R5. 10. 10 R6. 01. 09	7名
新規採用者オリエンテーション	『医療機器操作について』	講義	年1回	2023. 4. 2	
追加職員研修	『医療機器安全管理』	e-learning	年1回	2023. 10. 3～2024. 1. 12	
追加職員研修	『生体情報モニタとチャンネル管理について』	講義 e-learning	年4回のうち1回	2023. 10. 5	
医療機器安全管理研修	人工心肺装置及び補助循環装置 人工呼吸器 血液浄化装置 除細動器(AED除く) 閉鎖式保育器	講義 OJT	複数回	2023. 4～随時	
NST院内勉強会	①ICU-AWIに対する栄養療法とリハビリテーション ②脳卒中急性期の栄養管理 ～プロトコルの有用性～	オンライン講演会	年2～3回	①R5. 4. 25 ②R5. 9. 21	①67 ②55
暴言・暴力研修会	暴言・暴力・クレームに繋がる発生要因、トラブルを未然に防ぐ挨拶・声掛け、暴言・悪質クレームへの対応、身の危険を感じる暴力事件発生時の具体的な対応策	講義	年1回	3/6	13名

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
危機管理マニュアル研修会	防災対策マニュアル、BCPについてスライドにて説明研修実施	講義	年1回	4/12	13名
LIS研修会	検体検査システム、細菌検査システム、生理検査システムについてスライドおよび口頭による説明研修	講義	年1回	4/3, 5/17	13名
ISO研修会	①ISO15189の4章（品質）に関する研修をスライドおよび口頭にて実施 ②ISO15189の5章（技術）に関する研修をスライドおよび口頭にて実施	講義	年1回 新入・異動時	4/19	13名
検査部抄読会	文献紹介	講義	年15回	2023. 4-2024. 3の木曜日	13名
接遇・コミュニケーション	接遇・コミュニケーションについてスライドを用いて実施	講義	年1回	7/12	15名
接遇・コミュニケーション	スライドの講義に加え、ハンズオンで実際にエコーを当てて講習を行った。	講習会	1回	R5. 8. 21	10
輸血療法セミナー	小児脊柱変形手術における自己血輸血の実際	講演会	1回	令和6年3月8日（金）	30名
第1回 宮崎大学がんセミナー	○がんの生物学・分子生物学病理学 ○腫瘍免疫学	講義	1回	9月1日（金）	17名
第2回 宮崎大学がんセミナー	○食道がん・胃がん（薬物療法） ○食道がん・胃がん（手術療法）	講義	1回	9月6日（水）	22名
第3回 宮崎大学がんセミナー	○放射線療法概論 ○骨・軟部腫瘍	講義	1回	9月8日（金）	14名
第4回 宮崎大学がんセミナー	○化学療法・分子生物学病理学 ○白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	講義	1回	9月13日（水）	26名
第5回 宮崎大学がんセミナー	○大腸がん（薬物療法） ○大腸がん（手術療法）	講義	1回	9月15日（金）	13名
第6回 宮崎大学がんセミナー	○肝がん（薬物療法） ○肝がん（手術療法）	講義	1回	9月29日（金）	10名
第7回 宮崎大学がんセミナー	○胆道がん・膵がん（薬物療法） ○胆道がん・膵がん（手術療法）	講義	1回	10月4日（水）	11名
第8回 宮崎大学がんセミナー	○乳がん ○婦人科がん	講義	1回	10月11日（水）	22名
第9回 宮崎大学がんセミナー	○精神腫瘍学（サイコロジー） ○緩和医療概論	講義	1回	10月13日（金）	11名
第10回 宮崎大学がんセミナー	○家族性腫瘍 ○小児がん	講義	1回	10月20日（金）	16名
第11回 宮崎大学がんセミナー	○泌尿器科腫瘍 ○皮膚がん	講義	1回	10月27日（金）	12名
第12回 宮崎大学がんセミナー	○脳腫瘍 ○頭頸部がん	講義	1回	11月1日（水）	9名
第13回 宮崎大学がんセミナー	○肺がん（薬物療法） ○肺がん（手術療法）	講義	1回	11月8日（水）	11名
第5回病棟別薬剤研修会	粉砕・簡易懸濁について	スライドもしくはハンドアウトを用いた研修会	17回	各病棟ごとに開催	136名
体表面照合装置Identifyを用いた患者照合	1. 診療用高エネルギー放射線発生装置における業務研修 体表面照合装置Identifyを用いた患者照合を行い、照合画像との比較を行う。	講義及び実技	1回	2023年6月15日	12名
腔内治療（RALS）時のストレッチャー移動、治療計画CT移乗訓練	2. 診療用放射線照射装置における業務研修 腔内治療用ストレッチャーを使用して、治療計画CT室までの動線の確保、ストレッチャーから治療計画用CTに移乗する際の注意点を確認する	講義及び実技	1回	2023年10月5日	7名
停電時対応・緊急時寝台下降動作	1. 診療用高エネルギー放射線発生装置における業務研修 地震や停電が発生し、治療装置が停止した際に寝台を下降させ、ストレッチャーorエアストレッチャーに移乗して患者退避を行う。	講義及び実技	1回	2023年11月10日	8名
治療計画装置Eclipse、Oncentraを用いた輪郭描出と治療計画研修	2. 診療用放射線照射装置における業務研修 2つの治療計画装置を用いて、腔内放射線治療計画の線量分布作成と輪郭描出を並行して行う方法を習得する	講義及び実技	1回	2023年12月22日	6名
内分泌代謝疾患・糖尿病の病態生理・治療について	内分泌代謝疾患・糖尿病の病態生理・治療	講義	1回	2024年1月18日	5-10名
血液疾患の病態生理・治療について	血液疾患の病態生理・治療	講義	1回	2024年3月22日	5-10名
病棟勉強会	病棟勉強会	講習会	3回	2023年9月1日、9月15日、9月29日	20

2023年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
第15回宮崎リハビリテーション講習会	リハビリテーション講習会	講習会	1回	2023年10月22日	79名
第13回宮崎病理診断フォーラム	歯科口腔領域	講習会	1回	2023年10月7日	51名
第5回病棟別勉強会（薬剤部）	①「簡易懸濁について」 ②「カリウム製剤の取り扱い」 ③「アナフィラキシーを起こしやすい薬剤」	勉強会形式	16回	2023年10月～2024年1月 までの間に全16回実施 （各病棟毎に1回実施）	136名



(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 賀本 敏行
管理担当者氏名	高橋 圭郎

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び各診療科  ・原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 ・エックス線写真は電子媒体に保存 ・診療録等を本院外に持ち出さない	
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課 医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課 医療安全管理部	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課 感染制御部	
	第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び 感染対策マニュアル内 保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課 感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	手順書：全部署 実施状況：薬剤部	・調剤室、製剤室、薬剤部 教授室にて紙媒体で 保管
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	・各部門に電子媒体で保管	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	各部門		
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	各部門		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	・薬剤部教授室にて紙媒体で保管
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	・電子媒体（病院IR部フォルダ内）保存及び病院IR部内鍵付きキャビネットに保管
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	総務課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画    ②. 現状
閲覧責任者氏名	賀本 敏行
閲覧担当者氏名	高橋 圭郎
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟3階 ミーティングルーム
閲覧の手続の概要	
・内部者については権限を付与し、閲覧を制限している。 ・外部者については、特に定めていない。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に係る安全管理の基本的考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理体制</li> <li>3. 職員研修・教育</li> <li>4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応</li> <li>6. 深刻な感染症事例発生時の対応</li> <li>7. 患者等との情報の共有</li> <li>8. 患者からの相談の対応</li> <li>9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。</li> <li>2. 医療安全管理マニュアルに関する事。</li> <li>3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。</li> <li>4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。</li> <li>5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。</li> <li>6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。</li> <li>7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。</li> <li>8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関する事。</li> <li>9. 医療安全管理部の業務に関する事。</li> <li>10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>12. 医療放射線に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>13. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年15回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理に関する講演会（4回）                   <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 「医療放射線の安全管理」</li> <li>第2回 「しなやかな現場力で成功を確かなものにする」</li> <li>第3回 「生体情報モニタとチャンネル管理について」</li> <li>第4回 「医薬品に関する医療安全を確保するために」</li> </ol> </li> <li>2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（8回）</li> <li>3. 講演会eラーニング（第1回～第4回）（1回）</li> <li>4. 新規採用者研修（1回）</li> <li>5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修eラーニング（1回）</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul>	

1. 医療安全管理部会議、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等
2. リスクマネージャー会議での事例報告及び周知
3. 作業標準の作成
4. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し
5. 院内ラウンド
6. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告
7. 院内全死亡例についての検証

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に対する基本的な考え方</li> <li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告</li> <li>6. 抗菌薬適正使用に関する基本方針</li> <li>7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>8. 地域の医療施設等との連携に関する基本方針</li> <li>9. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染の予防に関すること。</li> <li>2. 感染の情報の収集に関すること。</li> <li>3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。</li> <li>4. 防疫対策の確立に関すること。</li> <li>5. その他感染対策についての重要事項に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年22回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理・感染対策に関する講演会（4回）                   <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 「手術部位感染対策をサーベイランスと現地現物で考える」</li> <li>第2回 「微生物検査の適切な検体採取とアンチバイオグラムの活用について」</li> <li>第3回 「当院の感染対策UP-T0-DATE2023」</li> <li>第4回 「当院の抗菌薬適正使用の状況報」</li> </ul> </li> <li>2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（8回）</li> <li>3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）</li> <li>4. 各部署との勉強会（8回）                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟（6回）</li> <li>・ 救命救急センター（1回）</li> <li>・ 手術部（1回）</li> </ul> </li> <li>5. 新規採用者研修（1回）</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部での検討、現場へのフィードバックを行う。</li> <li>2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が感染制御部へ報告する。感染制御部は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。</li> <li>3. 感染制御部による定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策および抗菌薬適正使用支</li> </ol> </li> </ul>	

援の推進を図る。

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 第4回医療安全管理・感染対策講演会 「当院の抗菌薬適正使用の状況報告」</li> <li>2. 第4回医療安全管理・感染対策講演会 「医薬品に関する医療安全を確保するために」</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の採用</li> <li>2. 医薬品の購入</li> <li>3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項</li> <li>4. 部署における麻薬およびプレグランディン膣坐剤の運用</li> <li>5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li> <li>6. 病棟における医薬品の管理</li> <li>7. 外来、中央診療部門における医薬品の管理</li> <li>8. 手術部の医薬品管理</li> <li>9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集、提供等）に関する事項</li> <li>10. 救急部門・集中治療室・総合周産期母子医療センター</li> <li>11. 輸血・血液管理部門</li> <li>12. 生命維持管理装置領域</li> <li>13. 臨床検査部門</li> <li>14. 画像診断部門</li> <li>15. 他施設との連携</li> <li>16. 事故発生時の対応</li> <li>17. 教育・研修に関する事項</li> <li>18. 薬剤部部門</li> </ul> </li> </ul> <p>上記項目に関し、手順書改定時にチェック表を用いて全項目、各担当者が業務手順書を確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：院内製剤</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医薬品専門部会で情報を把握・収集および審議し、医療安全管理委員会へ報告を行う</p> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> <li>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明</li> <li>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処</li> <li>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて</li> <li>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</li> <li>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</li> <li>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</li> <li>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （有）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</li> <li>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：適応外使用有り 1歳、男性の腎動脈狭窄症に対して冠動脈ステント（XIENCE Skypoint）の使用 58歳、男性の食道癌術後の通過障害に対して食道ステント（HANAROSTENT®）の使用 45歳、男性の外傷性腭損傷に対して十二指腸ステント（Boston Scientific 社 HANAROSTENT®）の使用</li> </ul>	

・ **その他の改善のための方策の主な内容：**

医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者の配置を、「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」に明記している。併せて、医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する文言を明記している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況          医薬品情報室の担当者に PMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度、緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況          調剤時や病棟業務において未承認を含む使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医薬品専門部会、医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：          （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：          インフォームド・コンセントの対象となる医療行為について説明と同意に関する記録・同席の基準が遵守されているか質的監査を実施している。リスクSについては記録・同席とも必須とし、リスクAについては看護師の同席は原則とし同席できない場合は説明後に関りを持ち、患者等の理解を記録に残すことを指導した。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：          システムによる量的監査の実施および診療録チェックシートを用いた質的監査を多職種で実施し評価結果を診療録監査・IC委員会へ報告し、指導内容については医療安全管理委員会、病院連絡会で職員全体に周知指導した。監査を実施する構成委員であるリスクマネージャーについては所属する診療録の記載を確認する自己評価を実施し、監査結果を診療科へフィードバックすることにより、所属職員への医療安全管理の教育を実践している。</p> <p>・指導内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療録記載率向上と適正な記載記録の促進</li> <li>2. 侵襲を伴う医療行為の説明同意書について共通様式を使用した患者にわかりやすい記載とする</li> <li>3. 病名は診療・診断の都度登録し、傷病転帰を記載し逐一整理すること</li> </ol>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（8）名</li> <li>  うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（8）名</li> <li>  うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名</li> <li>  うち看護師：専従（4）名、専任（0）名、兼任（0）名</li> <li>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</li> <li>・活動の主な内容：       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関すること。</li> <li>2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。</li> <li>4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>5. 患者からの医療に係る相談に関すること。</li> <li>6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。 （入院患者の全死亡例報告の検証を含む）</li> <li>7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。</li> <li>8. 医療安全のための教育・研修に関すること。</li> <li>9. 医療安全管理マニュアルに関すること。</li> <li>10. 医療安全の確保に資する診療内容のモニタリングに関すること。</li> <li>11. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。</li> <li>12. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。</li> <li>13. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。</li> </ol> <p>上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> </li> </ul>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（3件）</li> <li>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）</li> <li>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）</li> <li>・活動の主な内容：       <p>前年度、診療科から2件の申請を受け、2件について高難度新規医療技術評価委員会を開催した（1件は令和4年度申請、令和5年度に承認された）。委員会の意見を踏まえ、提供の適否について3件は承認に決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。また当該技術が適正な手順に基づいて提供されたかについては、報告書の提出を受け、実施状況を確認し病院長へ報告を行った。</p> </li> <li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）</li> <li>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）</li> </ul>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）</li> <li>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）</li> <li>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）</li> <li>・活動の主な内容：       <p>前年度、診療科からの申請はなかった。承認中の当該医療の提供について1件実施の報告を受け、実施および遵守状況を確認し病院長へ報告を行った。</p> </li> <li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）</li> </ul>	

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年248件  
・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年79件（3b以上）  
・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
入院患者の院内死亡事例については、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至った経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否か判定したものを毎月開催される委員会で審議している。  
特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象（3b以上）についても同様に、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：名古屋大学医学部附属病院）10月12日）  
・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：和歌山県立医科大学附属病院）11月17日実施）  
・技術的助言の実施状況  
未承認・適応外・禁忌医薬品使用の適否判断基準及び運用体制の見直しについて助言を受け、運用体制について、医療安全管理委員会で審議し、医薬品安全管理責任者が所掌する体制に見直しを行った。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況  
宮崎大学医学部附属病院患者相談等取扱要領及び宮崎大学医学部附属病院患者相談室に関する申合せにより、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況  
1. 医療安全管理に関する講演会（4回）  
第1回、第2回、第3回、第4回  
2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（8回）  
3. 講演会 e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）  
4. 新規採用者研修（1回）  
5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修 e-ラーニング（1回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況  
管理者：2023年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）  
医療安全管理責任者：2023年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）  
医薬品安全管理責任者：2023年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）  
医療機器安全管理責任者：2023年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

(公財)日本医療機能評価機構による病院機能評価 (一般病院 3、3rdG : Ver. 2.0)

認定期間 : 2023 年 2 月 17 日 ~ 2028 年 2 月 16 日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院のホームページに、認定情報及び結果の公表を行っている。

・ 評価を踏まえ講じた措置

評価によって明らかになった課題等の解消のため、関係部署との連携により継続した改善への取り組みを行い、病院サービスの質の向上に努めている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師免許を有している者</li> <li>2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有すること。</li> <li>3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院又は当院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。</li> <li>4. 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有する者 医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無



規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する事項を審議</li>   <li>・審議の概要の従業者への周知状況 病院連絡会議等で周知している</li>   <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・公表の方法 大学ホームページに掲載</li>   <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</li> </ul>	
合議体の委員名簿	

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
賀本 敏行	○	医師	病院長
海北 幸一		医師	循環器内科科長
菊池 正雄		医師	腎臓内科科長
下田 和哉		医師	血液内科科長
塩見 一剛		医師	脳神経内科科長
宮崎 泰可		医師	呼吸器内科科長
山口 秀樹		医師	内分泌・代謝・糖尿病 内科科長
梅北 邦彦		医師	膠原病内科科長
高城 一郎		医師	感染症内科科長
河上 洋		医師	消化器内科科長
平野 羊嗣		医師	精神科科長
盛武 浩		医師	小児科科長
七島 篤志		医師	肝胆膵外科科長
武野 慎祐		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
中目 和彦		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
古川 貢之		医師	心臓血管外科科長
前田 亮		医師	呼吸器・乳腺外科科長

伊東 大		医師	形成外科科長
亀井 直輔		医師	整形外科科長
天野 正宏		医師	皮膚科科長
澤田 篤郎		医師	泌尿器科科長
池田 康博		医師	眼科科長
高橋 邦行		医師	耳鼻いんこう・頭頸部外科科長
桂木 真司		医師	産科婦人科科長
東 美菜子		医師	放射線科科長
恒吉 勇男		医師	麻酔科科長
沖田 典子		医師	脳神経外科科長
山下 善弘		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯科科長
佐藤 勇一郎		医師	病理診断科科長
久富木 庸子		医師	輸血・細胞治療部長
落合 秀信		医師	救命救急センター長
荒川 英樹		医師	リハビリテーション科科長
此元 隆雄		医師	遺伝カウンセリング部長
細川 歩		医師	がんセンター長
谷口 正彦		医師	ME機器センター長
永田 賢治		医師	肝疾患センター長
伊東 芳郎		医師	地域総合医育成センター長
板井 孝一郎		教授	臨床倫理部長
榮 建文		医師	I V Rセンター長
永田 順子		歯科医師	口唇口蓋裂・口腔育成センター長
鈴木 斎王		医師	患者支援センター長
綾部 貴典		医師	医療安全管理部長
児玉 由紀		医師	総合周産期母子医療センター長
渡邊 信二		医師	コミュニティ・メディカルセンター長
小松 弘幸		医師	医療人育成支援副センター長
金氏 毅		医師	周術期口腔ケアセンター長
池田 龍二		薬剤師	薬剤部長
福満 美和		看護師	看護部長
野澤 勝信		事務職	事務部長
陪席			
水口 麻子		医師	病院長補佐
猪崎 みさき		臨床検査技師	検査部技師長
小味 昌憲		診療放射線技師	放射線部技師長
坂元 あい子		臨床検査技師	輸血・細胞治療部技師

			長
野口 裕史		衛生検査技師	病理部技師長
宮崎 茂明		理学療法士	リハビリテーション部技士長
小田 裕一		臨床工学技士	ME機器センター臨床工学技士長
笹葉 啓子		管理栄養士	栄養管理部副部長
奥村 学		薬剤師	医療安全管理部副部長
中尾 直子		看護師	医療安全管理部副部長
甲斐 由紀子		看護師	医療安全管理部
川崎 朋子		看護師	副看護部長（医療安全担当）
河崎 千穂		看護師	感染対策師長
山下 篤		教授	病理学講座

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（  ・ 無 ）
- ・ 公表の方法  
大学ホームページに掲載
  
- ・ 規程の主な内容
  - 病院長は、本院の管理運営を総括し、所属職員を監督する。
  - 病院等は、本院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限を有する
  - 科長や部長等の任命権限
  - 科長及び副科長の解任権限
  
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - 副病院長 7名（医療安全管理担当、教育・研究担当、医療連携・情報・広報担当、地域貢献・災害担当、薬事担当、看護担当、事務担当）
  - 病院長補佐9名（医療倫理担当、医療安全教育担当、若手医師担当、就労環境・女性医師担当、総務課長、管理課長、医事課長、医療支援課長、総務医事課長）
  
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
大学で管理者研修を実施している

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>①医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について医学部附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>②委員会は必要に応じて、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるようよう意見を述べる。</p> <p>③委員会は上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・公表の方法： 本院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
近本 亮	熊本大学病院 医療の質・安全管理部	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体 就労支援アストモス		医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容  
大学業務の監査、分析に関すること。  
大学業務の指導、改善に関すること。
  
- ・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 (  ・ 無 )
  
- ・ 公表の方法  
本学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況              予算の作成及び執行並びに決算に関する事項              組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年7回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年7回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</li> <li>・ 公表の方法              本学ホームページに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人宮崎大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 本院ホームページに掲載</li></ul>



(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションオーダーを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。</p> <p>診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。</p> <p>手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。</p>	